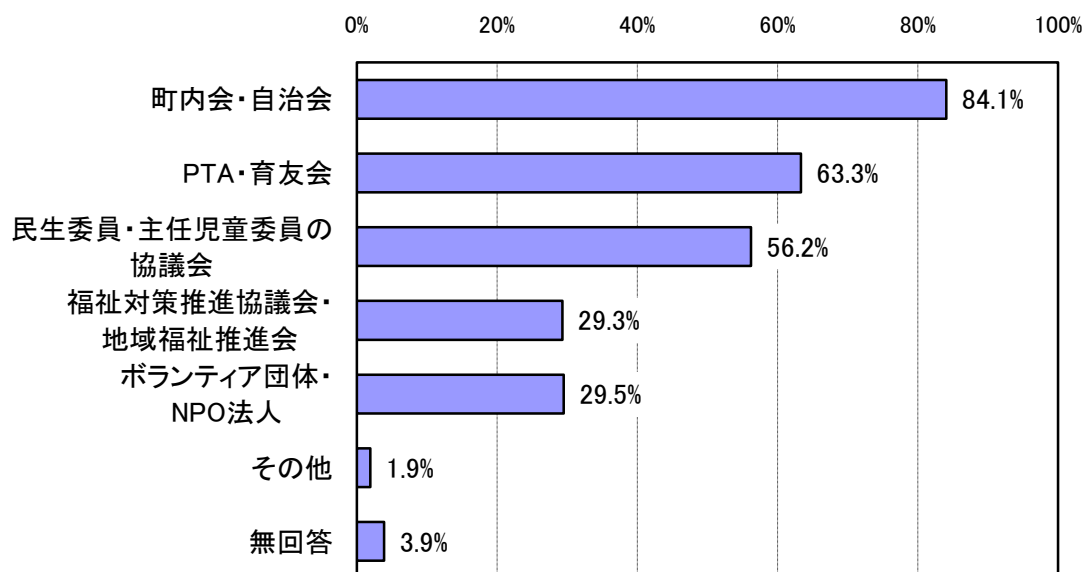


3. 地域活動やボランティア活動の状況や意識について

(問18) 地域には、町内会や自治会などの組織のほか、福祉対策推進協議会などのさまざまな団体が活動していますが、あなたは、どのような団体を知っていますか。
(知っているものすべてに○)



「福祉対策推進協議会または地域福祉推進会」については、全体の3割にも満たず、地域内のボランティア団体などよりも認知度が低い。
「その他」では、「老人会」や「趣味の会」、「まちづくり協議会」などの回答がみられた。

■属性別の回答結果（上位ベスト3のみ） (年齢別)

	1位	2位	3位
10代	PTA・育友会 (88.9%)	町内会・自治会 (81.5%)	ボランティア・NPO (37.0%)
20代	町内会・自治会 (84.7%)	PTA・育友会 (73.5%)	民生委員の協議会 (34.7%)
30代	町内会・自治会 (89.1%)	PTA・育友会 (80.6%)	民生委員の協議会 (50.3%)
40代	町内会・自治会 (89.9%)	PTA・育友会 (81.9%)	民生委員の協議会 (66.4%)
50代	町内会・自治会 (86.1%)	PTA・育友会 (69.9%)	民生委員の協議会 (65.6%)
60代	町内会・自治会 (86.0%)	PTA・育友会 (60.4%)	民生委員の協議会 (59.2%)
70代	町内会・自治会 (79.9%)	民生委員の協議会 (54.6%)	PTA・育友会 (46.2%)
80代～	町内会・自治会 (72.3%)	民生委員の協議会 (53.4%)	PTA・育友会 (37.2%)

(居住年数別)

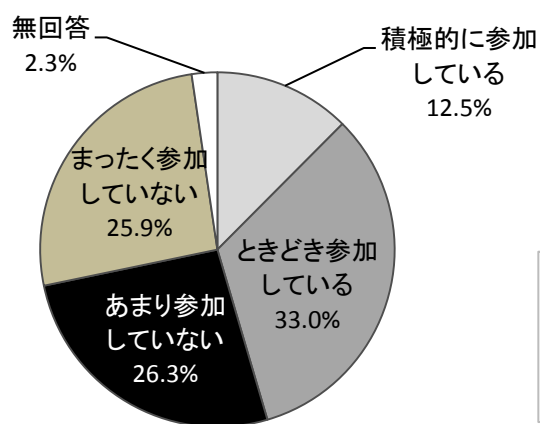
	1位	2位	3位
2年未満	町内会・自治会 (83.2%)	PTA・育友会 (68.0%)	民生委員の協議会 (49.6%)
～4年	町内会・自治会 (85.2%)	PTA・育友会 (68.9%)	民生委員の協議会 (44.3%)
～9年	町内会・自治会 (84.4%)	PTA・育友会 (71.6%)	民生委員の協議会 (49.6%)
～19年	町内会・自治会 (83.9%)	PTA・育友会 (69.6%)	民生委員の協議会 (54.8%)
～29年	町内会・自治会 (84.5%)	PTA・育友会 (64.4%)	民生委員の協議会 (58.8%)
～39年	町内会・自治会 (84.6%)	PTA・育友会 (60.7%)	民生委員の協議会 (60.3%)
40年～	町内会・自治会 (84.3%)	民生委員の協議会 (54.5%)	PTA・育友会 (62.1%)

(世帯構成別)

	1位	2位	3位
単身	町内会・自治会 (76.5%)	PTA・育友会 (48.8%)	民生委員の協議会 (48.2%)
夫婦のみ	町内会・自治会 (85.5%)	PTA・育友会 (59.9%)	民生委員の協議会 (58.8%)
親と子	町内会・自治会 (85.9%)	PTA・育友会 (72.2%)	民生委員の協議会 (56.3%)
親と子夫婦	町内会・自治会 (81.9%)	PTA・育友会 (59.7%)	民生委員の協議会 (51.4%)
三世帯	町内会・自治会 (85.9%)	PTA・育友会 (65.4%)	民生委員の協議会 (58.3%)
その他	町内会・自治会 (81.0%)	PTA・育友会 (58.7%)	民生委員の協議会 (57.1%)

(問19) あなたは、お住まいの地域の活動にどの程度参加していますか。

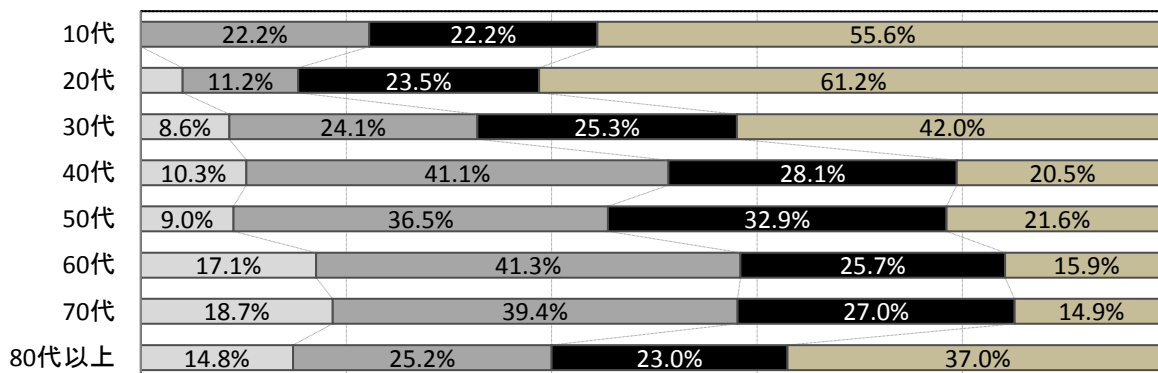
(いずれか1つに○)



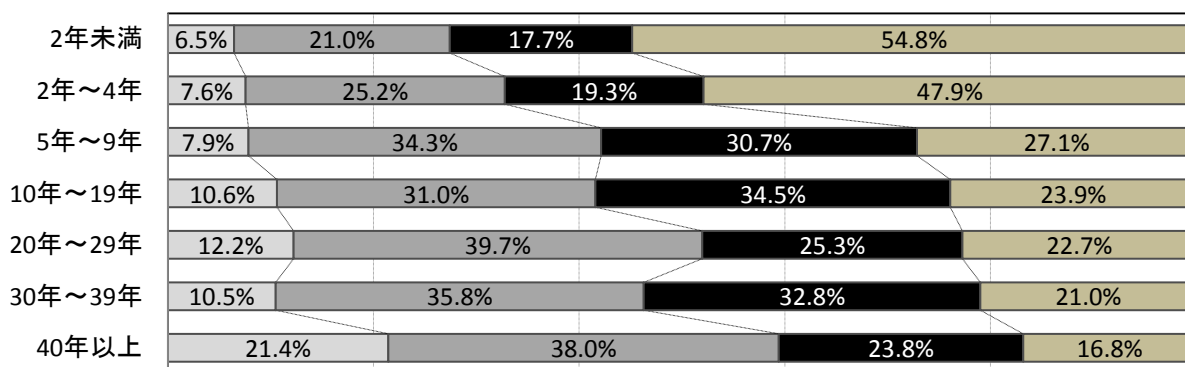
全体の半数以上が「まったく参加していない」あるいは「あまり参加していない」という結果となった。

■属性別の回答結果 ※無回答は除く

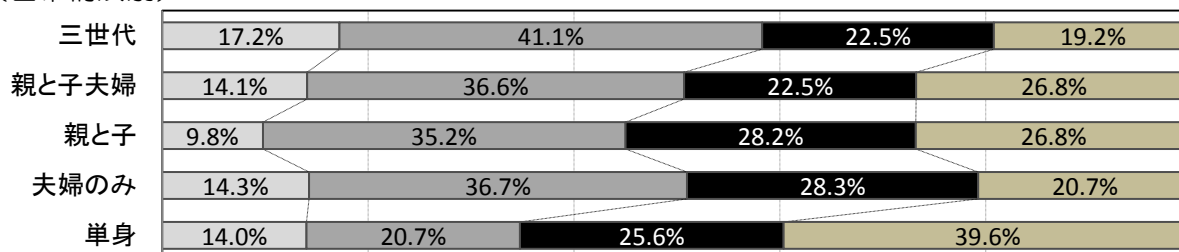
(年齢別) 0% 20% 40% 60% 80% 100%



(居住年数別)

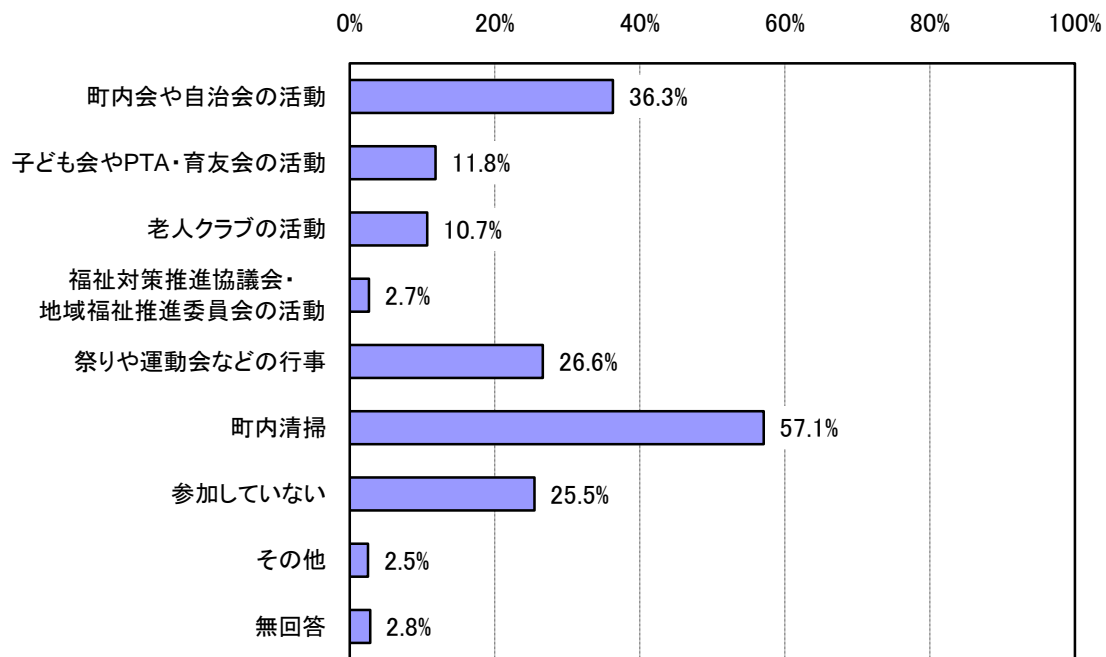


(世帯構成別)



どの年代でも「積極的に参加している」は20%に満たない。30代以下の4割から6割は「まったく参加していない」。また、居住年数が少ないほど「まったく参加していない」が多い。世帯別では、単身世帯の約4割が「まったく参加していない」。

(問20) あなたは、地域でどのような活動や行事に参加していますか。
(あてはまるものすべてに○)



「町内清掃」のみ半数を超えている。その他の項目では、多くても「町内会・自治会の活動」の36.3%で、市民の地域活動への参加率の低さが表れている。「その他」では「公民館祭り」や「放課後子ども教室」などの回答があった。

■属性別の回答結果（上位ベスト3のみ）
(年齢別)

	1位	2位	3位
10代	参加していない (59.3%)	お祭りなどの行事 (25.9%)	町内清掃 (14.8%)
20代	参加していない (64.3%)	町内清掃 (14.8%)	お祭りなどの行事 (25.9%)
30代	町内清掃 (44.6%)	参加していない (64.3%)	町内会や自治会の活動 (30.9%)
40代	町内清掃 (59.7%)	町内会や自治会の活動 (51.0%)	PTA活動 (43.0%)
50代	町内清掃 (68.0%)	町内会や自治会の活動 (41.7%)	お祭りなどの行事 (26.6%)
60代	町内清掃 (72.9%)	町内会や自治会の活動 (46.4%)	お祭りなどの行事 (33.9%)
70代	町内清掃 (62.7%)	町内会や自治会の活動 (35.7%)	老人クラブの活動 (28.5%)
80代～	参加していない (38.5%)	町内清掃 (35.1%)	老人クラブの活動 (28.4%)

(居住年数別)

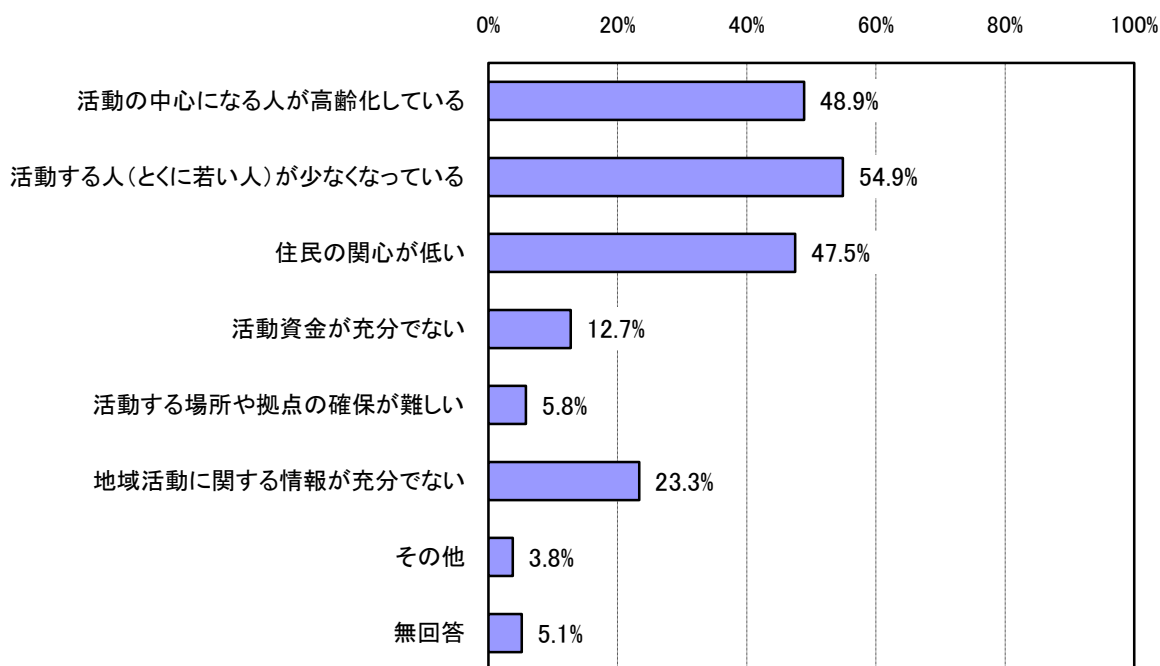
	1位	2位	3位
2年未満	参加していない (53.6%)	町内清掃 (32.8%)	町内会や自治会の活動 (19.2%)
～4年	参加していない (44.3%)	町内清掃 (39.3%)	町内会や自治会の活動 (27.0%)
～9年	町内清掃 (58.2%)	町内会や自治会の活動 (35.5%)	お祭りなどの行事 (29.1%)
～19年	町内清掃 (60.0%)	町内会や自治会の活動 (37.8%)	お祭りなどの行事 (27.8%)
～29年	町内清掃 (67.8%)	町内会や自治会の活動 (41.2%)	参加していない (21.0%)
～39年	町内清掃 (65.4%)	町内会や自治会の活動 (40.2%)	お祭りなどの行事 (28.6%)
40年～	町内清掃 (57.0%)	町内会や自治会の活動 (39.3%)	お祭りなどの行事 (33.1%)

(世帯構成別)

	1位	2位	3位
単身	参加していない (42.9%)	町内清掃 (40.6%)	町内会や自治会の活動 (22.9%)
夫婦のみ	町内清掃 (68.4%)	町内会や自治会の活動 (39.9%)	お祭りなどの行事 (26.7%)
親と子	町内清掃 (56.9%)	町内会や自治会の活動 (37.5%)	お祭りなどの行事 (27.1%)
親と子夫婦	町内清掃 (50.0%)	町内会や自治会の活動 (38.9%)	お祭りなどの行事 (33.3%)
三世帯	町内清掃 (54.5%)	町内会や自治会の活動 (39.1%)	お祭りなどの行事 (37.2%)
その他	参加していない (46.0%)	町内清掃 (31.7%)	町内会や自治会の活動 (25.4%)

(問21) あなたは、地域の活動の問題点は何だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)



「活動する人が少なくなっている」が最も多く、次いで「活動の中心になる人が高齢化している」、「住民の関心が低い」となっているが、この3項目合は
いずれも回答者の約50%が回答している。

■属性別の回答結果(上位ベスト3のみ)

(年齢別)

	1位	2位	3位
10代	活動する人が減っている(48.1%)	情報が十分ではない(40.7%)	住民の関心が低い(33.3%)
20代	活動する人が減っている(53.1%)	住民の関心が低い(49.0%)	中心となる人の高齢化(39.8%)
30代	住民の関心が低い(56.6%)	活動する人が減っている(50.3%)	中心となる人の高齢化(41.1%)
40代	住民の関心が低い(56.4%)	活動する人が減っている(52.3%)	中心となる人の高齢化(48.3%)
50代	活動する人が減っている(57.1%)	住民の関心が低い(55.6%)	中心となる人の高齢化(45.6%)
60代	活動する人が減っている(56.8%)	中心となる人の高齢化(55.1%)	住民の関心が低い(49.7%)
70代	活動する人が減っている(60.2%)	中心となる人の高齢化(55.0%)	住民の関心が低い(37.8%)
80代～	中心となる人の高齢化(53.4%)	活動する人が減っている(48.6%)	住民の関心が低い(25.7%)

(居住年数別)

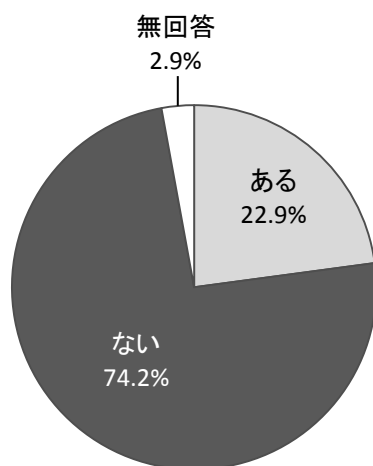
	1位	2位	3位
2年未満	住民の関心が低い(46.4%)	活動する人が減っている(45.6%)	情報が十分ではない(34.4%)
～4年	住民の関心が低い(47.5%)	活動する人が減っている(43.4%)	中心となる人の高齢化(36.1%)
～9年	住民の関心が低い(55.3%)	活動する人が減っている(53.2%)	中心となる人の高齢化(47.5%)
～19年	住民の関心が低い(53.5%)	活動する人が減っている(53.5%)	中心となる人の高齢化(45.2%)
～29年	活動する人が減っている(57.5%)	中心となる人の高齢化(55.8%)	住民の関心が低い(50.6%)
～39年	中心となる人の高齢化(58.5%)	活動する人が減っている(56.4%)	住民の関心が低い(50.0%)
40年～	活動する人が減っている(61.8%)	中心となる人の高齢化(53.7%)	住民の関心が低い(37.4%)

(世帯構成別)

	1位	2位	3位
単身	活動する人が減っている(47.6%)	中心となる人の高齢化(44.7%)	住民の関心が低い(41.8%)
夫婦のみ	活動する人が減っている(57.8%)	中心となる人の高齢化(52.9%)	住民の関心が低い(47.8%)
親と子	活動する人が減っている(55.3%)	住民の関心が低い(52.0%)	中心となる人の高齢化(49.4%)
親と子夫婦	活動する人が減っている(56.9%)	中心となる人の高齢化(44.4%)	住民の関心が低い(38.9%)
三世帯	活動する人が減っている(55.1%)	中心となる人の高齢化(46.8%)	住民の関心が低い(45.5%)
その他	活動する人が減っている(49.2%)	中心となる人の高齢化(38.1%)	住民の関心が低い(41.3%)

(問22) あなたは、ボランティア・NPO活動に参加したことがありますか。

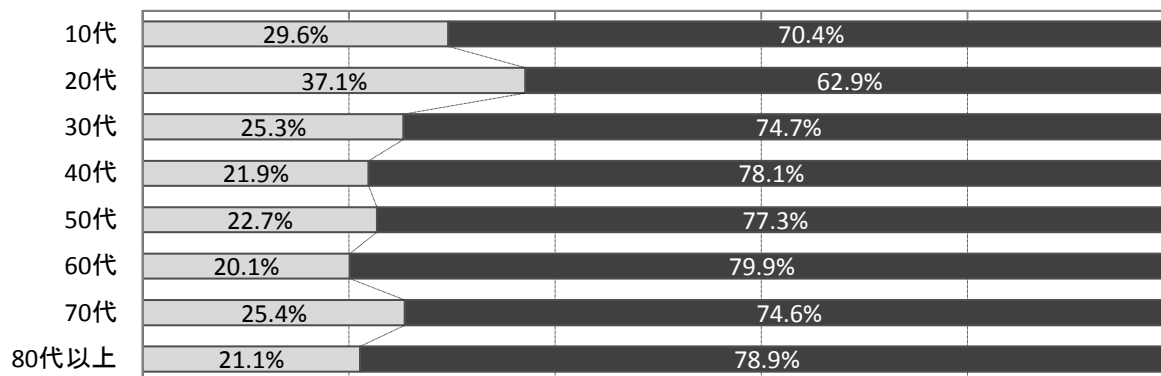
(いずれか1つに○)



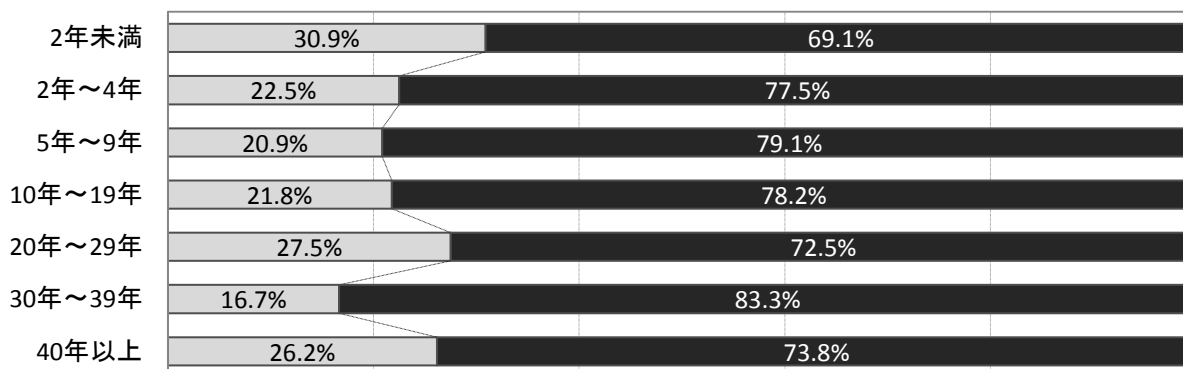
活動したことがある人は22.9%にとどまっている。

■属性別の回答結果 ※無回答は除く

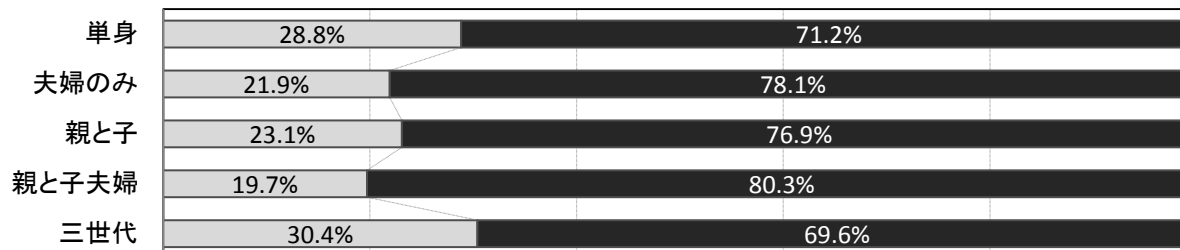
(年齢別) 0% 20% 40% 60% 80% 100%



(居住年数別)

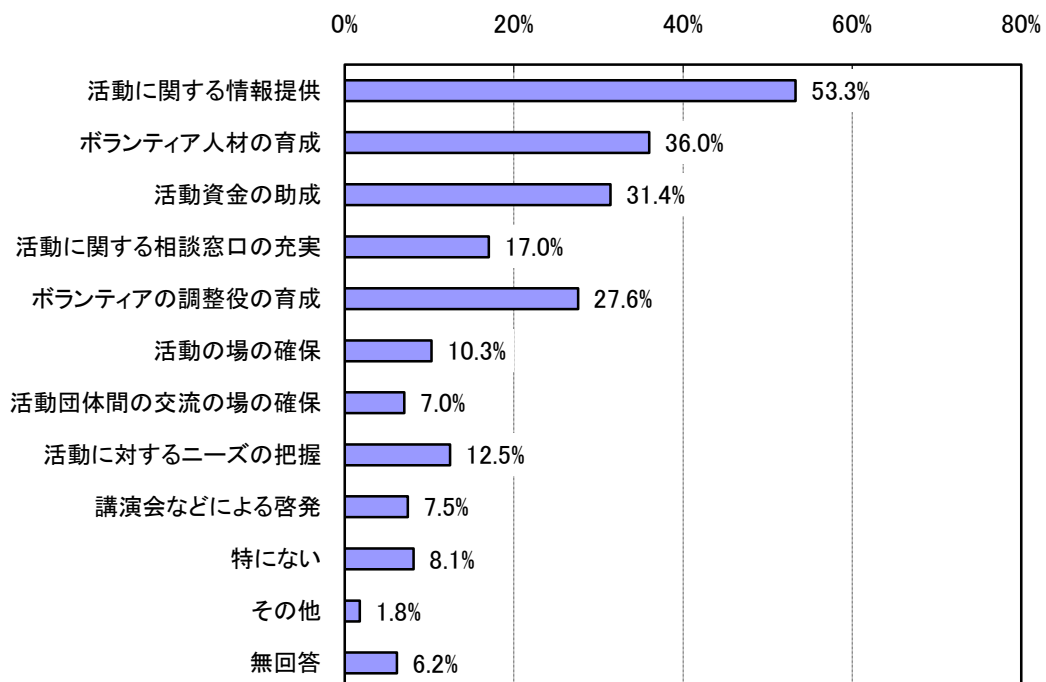


(世帯構成別)



「参加したことがある」の割合は、20代で37.1%と最も高く、他の属性でも、若い人が含まれると思われる属性（単身世帯や居住年数の浅い人）の割合が多少高い。

(問23) あなたは、ボランティア・NPO活動が活性化するためには、行政などがどのようなことに取り組む必要があると思いますか。
(あてはまるものに3つまで○)



「活動に関する情報提供」が53.3%で最も多く、次いで「ボランティア人材の育成」が36.0%となっている。

■属性別の回答結果（上位ベスト3のみ）
(年齢別)

	1位	2位	3位
10代	活動の情報提供 (66.7%)	活動資金の助成 (37.0%)	ボランティア人材の育成 (25.9%)
20代	活動の情報提供 (55.1%)	ボランティア人材の育成 (44.9%)	活動資金の助成 (30.6%)
30代	活動の情報提供 (60.6%)	ボランティア人材の育成 (32.6%)	ボランティアの調整役 (31.4%)
40代	活動の情報提供 (58.4%)	活動資金の助成 (45.0%)	ボランティア人材の育成 (35.6%)
50代	活動の情報提供 (59.1%)	ボランティア人材の育成 (42.5%)	活動資金の助成 (32.0%)
60代	活動の情報提供 (55.4%)	ボランティア人材の育成 (35.1%)	活動資金の助成 (30.4%)
70代	活動の情報提供 (42.6%)	ボランティア人材の育成 (34.1%)	活動資金の助成 (28.5%)
80代～	活動の情報提供 (41.9%)	ボランティア人材の育成 (29.1%)	活動資金の助成 (26.4%)

(居住年数別)

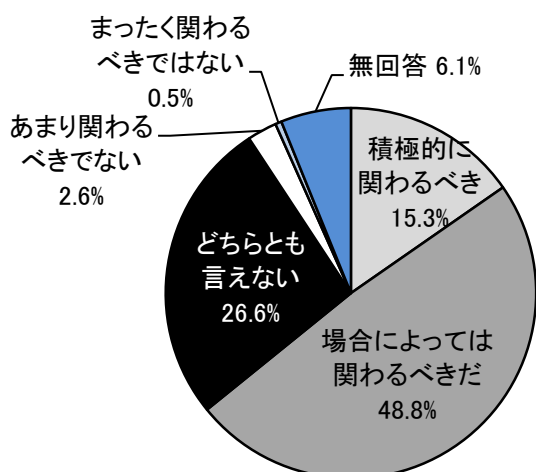
	1位	2位	3位
2年未満	活動の情報提供 (58.4%)	ボランティアの調整役 (38.4%)	ボランティア人材の育成 (37.6%)
～4年	活動の情報提供 (55.7%)	ボランティア人材の育成 (37.7%)	活動資金の助成 (34.4%)
～9年	活動の情報提供 (60.3%)	ボランティア人材の育成 (36.9%)	活動資金の助成 (33.3%)
～19年	活動の情報提供 (58.7%)	ボランティア人材の育成 (39.1%)	活動資金の助成 (29.6%)
～29年	活動の情報提供 (54.9%)	ボランティア人材の育成 (35.2%)	活動資金の助成 (35.2%)
～39年	活動の情報提供 (53.0%)	ボランティア人材の育成 (36.3%)	ボランティアの調整役 (30.3%)
40年～	活動の情報提供 (45.2%)	ボランティア人材の育成 (32.6%)	活動資金の助成 (29.2%)

(世帯構成別)

	1位	2位	3位
単身	活動の情報提供 (47.6%)	ボランティア人材の育成 (33.5%)	ボランティアの調整役 (30.6%)
夫婦のみ	活動の情報提供 (52.9%)	ボランティア人材の育成 (38.6%)	活動資金の助成 (32.0%)
親と子	活動の情報提供 (57.3%)	ボランティア人材の育成 (34.9%)	活動資金の助成 (32.5%)
親と子夫婦	活動の情報提供 (54.2%)	ボランティア人材の育成 (38.9%)	活動資金の助成 (30.6%)
三世帯	活動の情報提供 (51.3%)	ボランティア人材の育成 (34.6%)	活動資金の助成 (33.3%)
その他	活動の情報提供 (50.8%)	活動資金の助成 (31.7%)	ボランティア人材の育成 (30.2%)

(問24) あなたは、自治会などの“地域”を単位とする組織と、ボランティアやNPOなどの“目的別”の団体の関わり方は、どうあるべきだと思いますか。

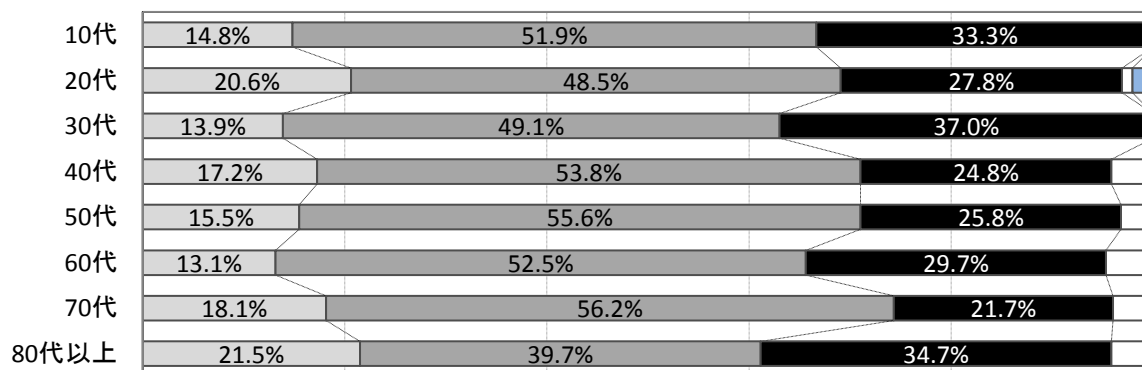
(いずれか1つに○)



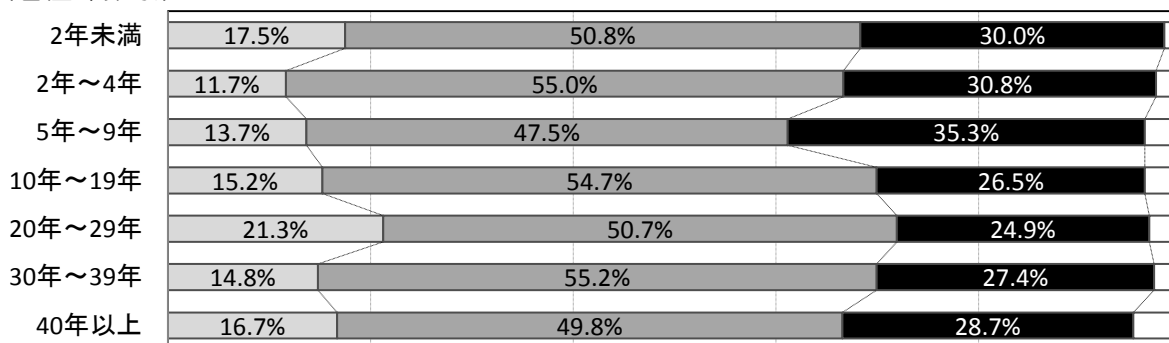
関わりについて肯定的な意見で6割以上だが、「どちらとも言えない」も26.6%と多数を占めている。

■属性別の回答結果 ※無回答は除く

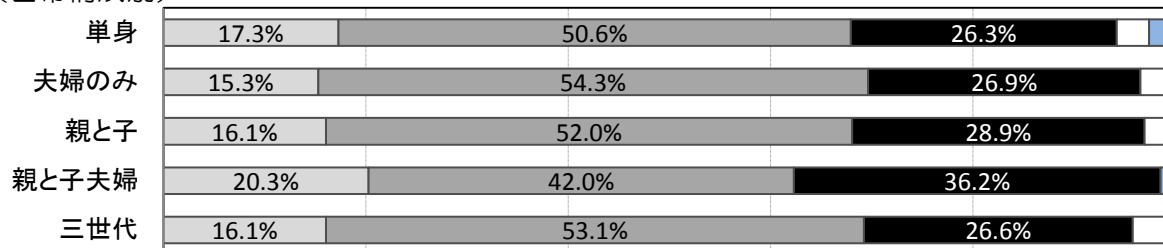
(年齢別) 0% 20% 40% 60% 80% 100%



(居住年数別)



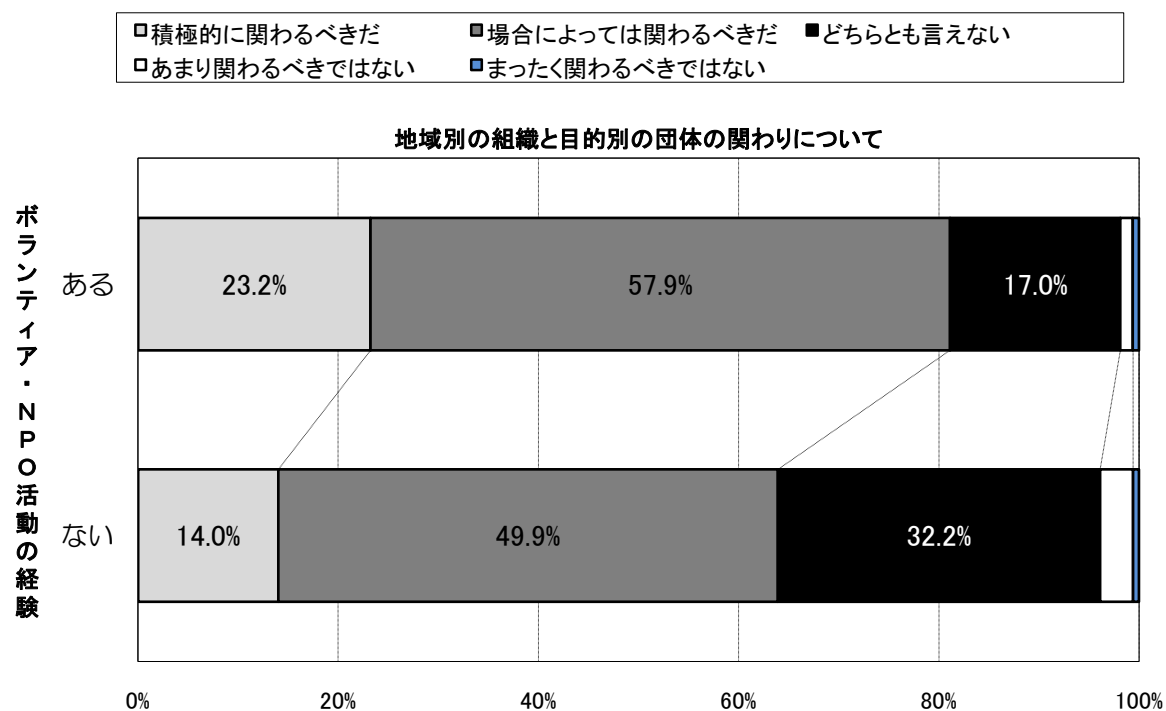
(世帯構成別)



属性別で大きな差は見られない。どの属性別でも「どちらとも言えない」が20%～40%と比較的大きな割合を占めている。

■関連する設問との分析 ※無回答は除く

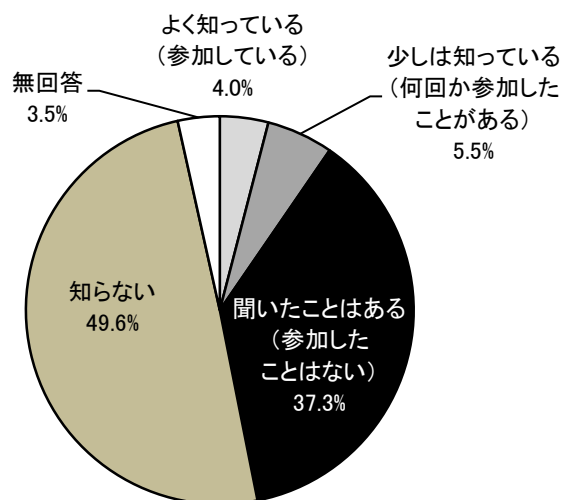
《ボランティア・NPO活動の参加経験（問22の結果）との関係》



活動の経験がある人は、経験がない人に比べて「積極的に関わるべき」「場合によっては関わるべき」のそれぞれの割合が8～9%高くなっている。

4. 福祉サービスに関する情報や利用の意識について

(問25) あなたは、「デイクラブ」や「ふれあいいきいきサロン」などの住民による交流の場があることを知っていますか。
(いずれか1つに○)



約半数は「知らない」という回答。
参加したことがある人は全体の10%
にも満たない結果となった。

■属性別の回答結果 ※無回答は除く

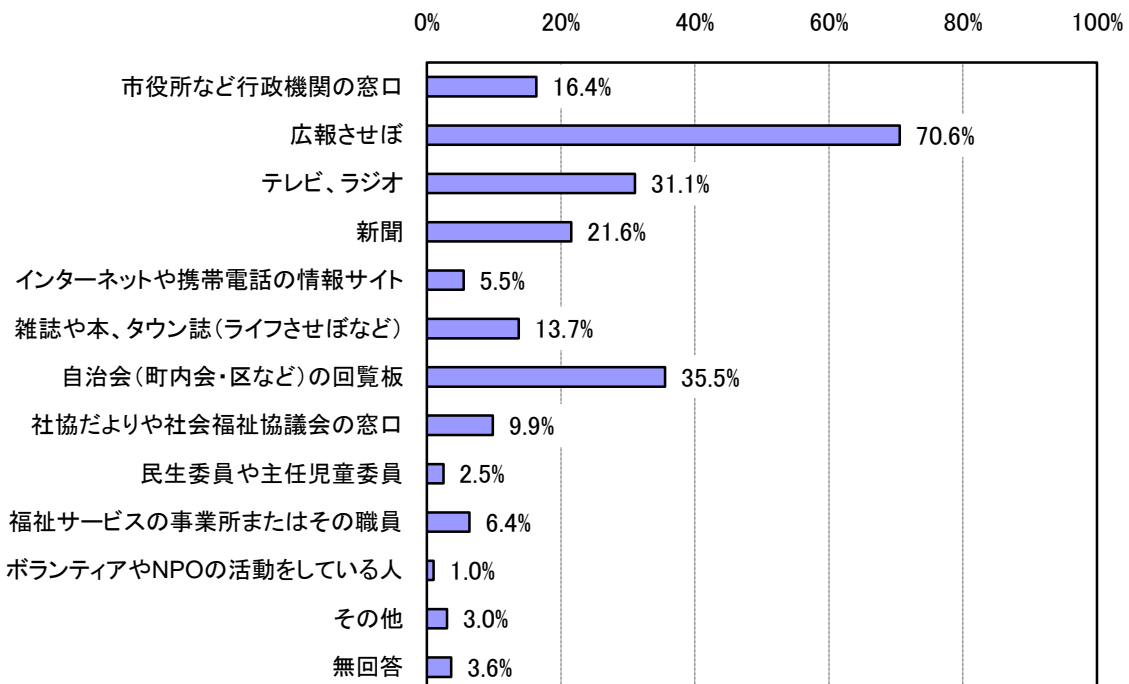
(年代別)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことはある	知らない
10代	0.0%	3.7%	29.6%	66.7%
20代	0.0%	1.0%	30.9%	68.0%
30代	0.6%	4.0%	27.7%	67.6%
40代	1.4%	4.8%	41.5%	52.4%
50代	4.7%	3.9%	38.4%	52.9%
60代	5.2%	4.6%	43.8%	46.3%
70代	7.3%	9.0%	43.2%	40.6%
80代以上	6.7%	11.2%	37.3%	44.8%

(居住年数別)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことはある	知らない
2年未満	3.3%	1.6%	36.1%	59.0%
2年～4年	1.7%	5.8%	27.3%	65.3%
5年～9年	2.1%	3.5%	40.4%	53.9%
10年～19年	2.2%	5.8%	38.4%	53.6%
20年～29年	5.3%	3.9%	39.9%	50.9%
30年～39年	1.8%	5.8%	40.4%	52.0%
40年以上	8.4%	9.0%	40.7%	41.9%

(世帯構成別)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことはある	知らない
単身	5.5%	7.4%	33.7%	53.4%
夫婦のみ	5.3%	5.3%	41.5%	47.9%
親と子	2.4%	5.4%	36.1%	56.2%
親と子夫婦	2.9%	4.4%	39.7%	52.9%
三世帯	4.1%	5.5%	46.6%	43.8%

どの属性別に見ても「よく知っている」は10%にも満たない。「少しは知っている」も10%を超えたのは80代以上のみ。「聞いたことはある」は各属性で3～4割程度ずつはある。

(問26) あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。
(3つまで○)



「広報させぼ」の割合はかなり高い。その他、テレビや新聞などの媒体よりも回覧板の割合が高くなっているのも特徴的。「インターネットや携帯電話の情報サイト」に至っては5.5%とかなり低い。

■属性別の回答結果（上位ベスト3のみ）
(年齢別)

	1位	2位	3位
10代	テレビ・ラジオ (51.9%)	広報させぼ (29.6%)	新聞 (25.9%)
20代	広報させぼ (49.0%)	テレビ・ラジオ (35.7%)	雑誌や本、タウン誌など (23.5%)
30代	広報させぼ (72.0%)	テレビ・ラジオ (24.6%)	自治会などの回覧版 (22.9%)
40代	広報させぼ (75.8%)	自治会などの回覧版 (38.9%)	テレビ・ラジオ (24.2%)
50代	広報させぼ (75.7%)	自治会などの回覧版 (37.5%)	テレビ・ラジオ (32.0%)
60代	広報させぼ (77.4%)	自治会などの回覧版 (42.6%)	テレビ・ラジオ (31.8%)
70代	広報させぼ (70.3%)	自治会などの回覧版 (44.6%)	テレビ・ラジオ (34.5%)
80代～	広報させぼ (62.8%)	自治会などの回覧版 (39.9%)	テレビ・ラジオ (28.4%)

(居住年数別)

	1位	2位	3位
2年未満	広報させぼ (55.2%)	テレビ・ラジオ (31.2%)	自治会などの回覧版 (24.8%)
～4年	広報させぼ (72.1%)	自治会などの回覧版 (30.3%)	テレビ・ラジオ (28.7%)
～9年	広報させぼ (73.8%)	自治会などの回覧版 (31.2%)	テレビ・ラジオ (28.4%)
～19年	広報させぼ (67.4%)	テレビ・ラジオ (35.7%)	自治会などの回覧版 (32.2%)
～29年	広報させぼ (74.2%)	自治会などの回覧版 (37.8%)	テレビ・ラジオ (30.5%)
～39年	広報させぼ (75.2%)	自治会などの回覧版 (36.8%)	テレビ・ラジオ (31.2%)
40年～	広報させぼ (71.3%)	自治会などの回覧版 (44.9%)	テレビ・ラジオ (30.1%)

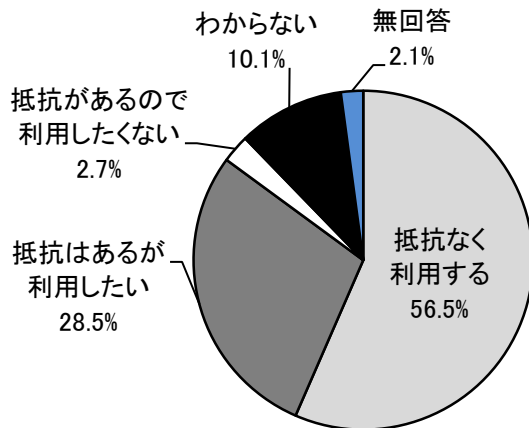
(世帯構成別)

	1位	2位	3位
単身	広報させぼ (62.4%)	テレビ・ラジオ (34.7%)	自治会などの回覧版 (32.4%)
夫婦のみ	広報させぼ (78.0%)	自治会などの回覧版 (43.1%)	テレビ・ラジオ (30.9%)
親と子	広報させぼ (72.0%)	自治会などの回覧版 (34.9%)	テレビ・ラジオ (29.2%)
親と子夫婦	広報させぼ (69.4%)	テレビ・ラジオ (36.1%)	自治会などの回覧版 (29.2%)
三世帯	広報させぼ (59.0%)	テレビ・ラジオ (30.1%)	自治会などの回覧版 (28.2%)
その他	広報させぼ (58.7%)	テレビ・ラジオ (30.2%)	自治会などの回覧版 (28.6%)

(問27) あなたは、ご自身やご家族の方に、福祉サービス※が必要になったとき、サービスを利用しますか。

(いずれか1つに○)

※介護保険や障がい者自立支援給付など



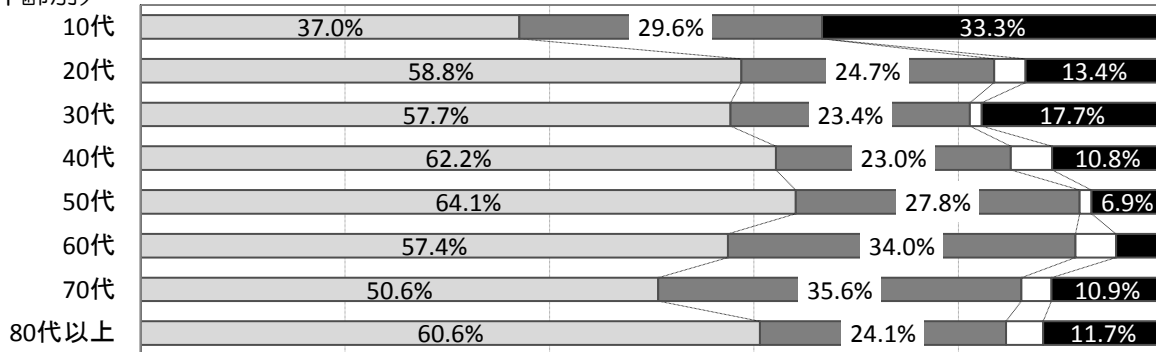
抵抗の有無に関わらず、サービスを利用したいと考える人の割合が多い。

■属性別の回答結果

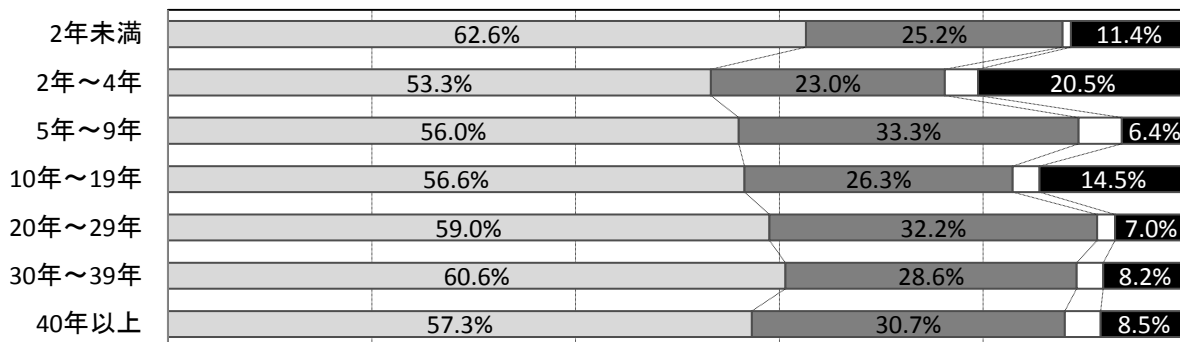
※無回答は除く

0% 20% 40% 60% 80% 100%

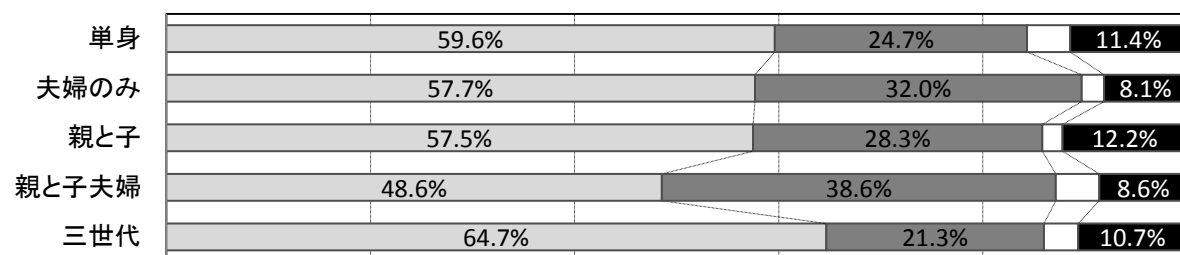
(年齢別)



(居住年数別)



(世帯構成別)

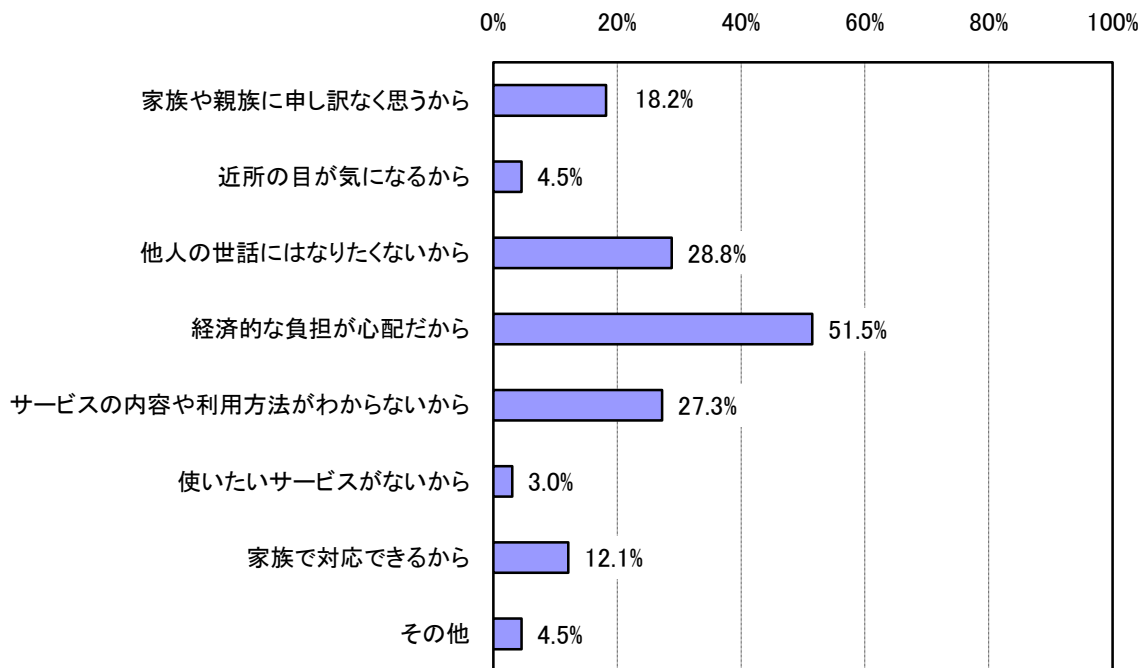


10代の回答では「わからない」が33.3%と多いが、どの属性別でも概ね5割～6割は「抵抗なく利用する」と回答している。他の属性と比較して一番身近な設問にあたると思われる三世帯での居住者でも64.7%が「抵抗なく利用する」と回答している。

(問27で「3 抵抗があるので利用したくない」を選択した方への設問)

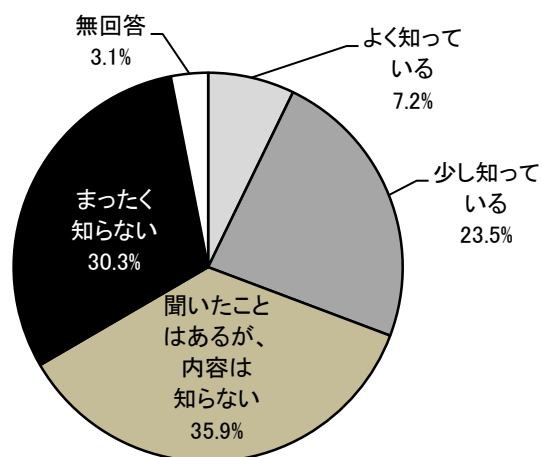
(福祉サービスを) 利用したくない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)



周りの人々との関わりより経済的な理由の方が多くなっている。「その他」では、「福祉サービスを提供してくれる人に気をを使うから」、「通帳管理の横領や施設等での虐待を耳にするから」といった回答も見られた。

(問28) あなたは、成年後見制度や日常生活自立支援事業※について知っていますか。
(いずれか1つに○)

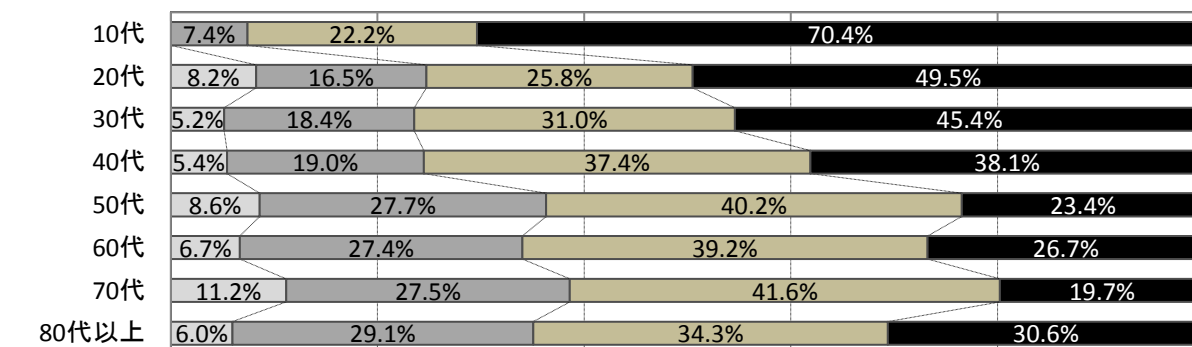


※認知症や知的障がい等で判断能力が十分でない方に代わって、福祉サービス利用の手続きや財産の管理などを行う制度

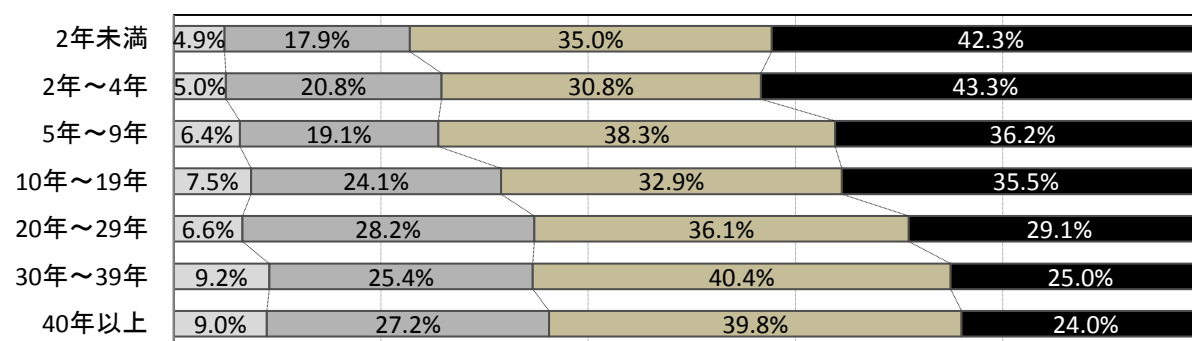
「少し知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」で全体の約6割を占めた。

■属性別の回答結果 ※無回答は除く

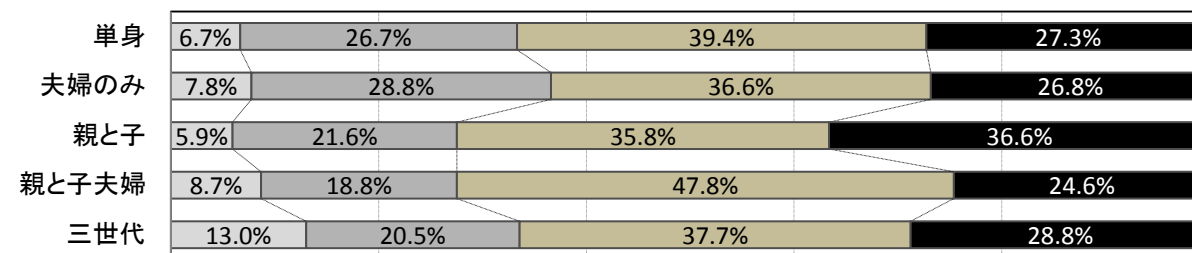
(年齢別) 0% 20% 40% 60% 80% 100%



(居住年数別)

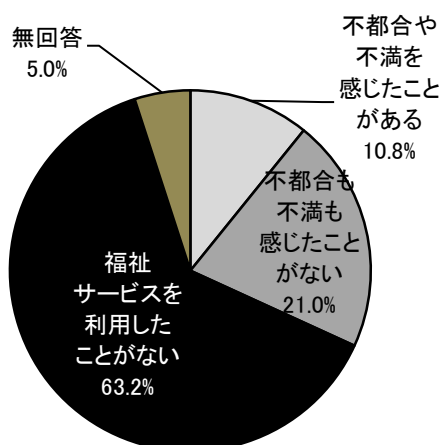


(世帯構成別)



10代の認知度はかなり低い。属性別で「よく知っている」が10%を超えたのは、年代別の70代、世帯構成別の三世帯のみ。どの属性別でも「内容は知らない」「まったく知らない」で6割以上を占めている。

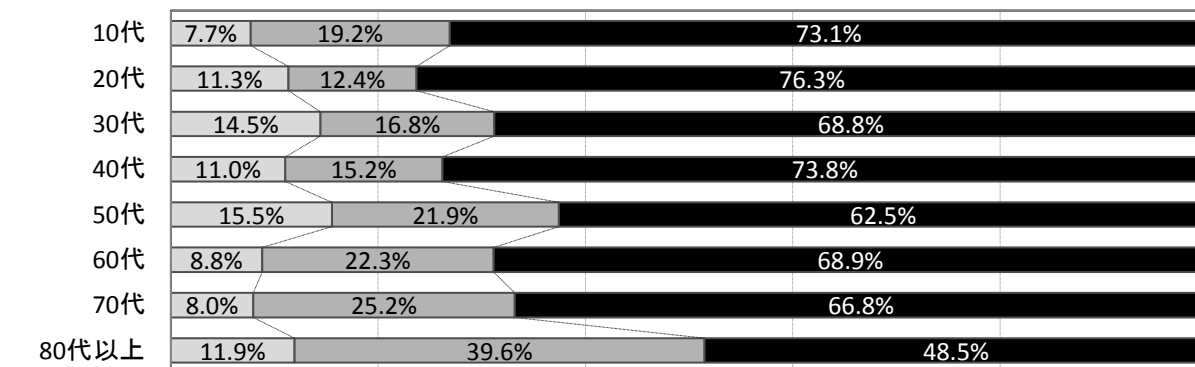
(問29) あなたやご家族は、福祉サービスの利用に関して、これまでに不都合を感じたり不満に思ったりしたことはありますか。
(いずれか1つに○)



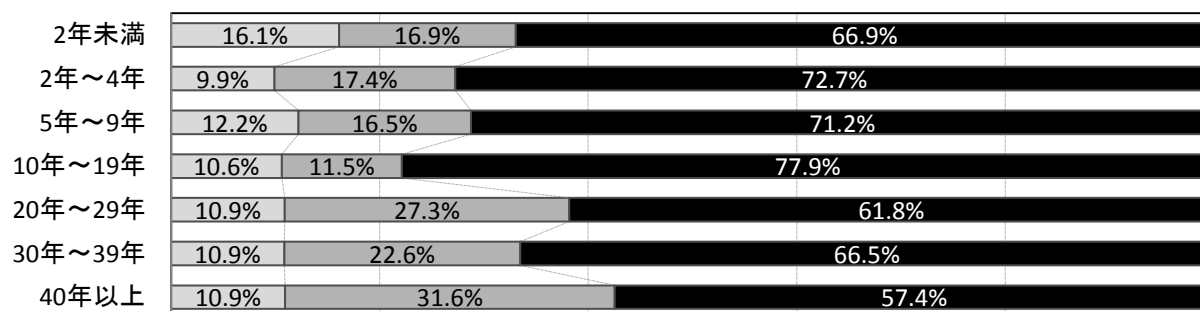
「少し知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」で全体の約6割を占めた。

■ 属性別の回答結果 ※無回答は除く

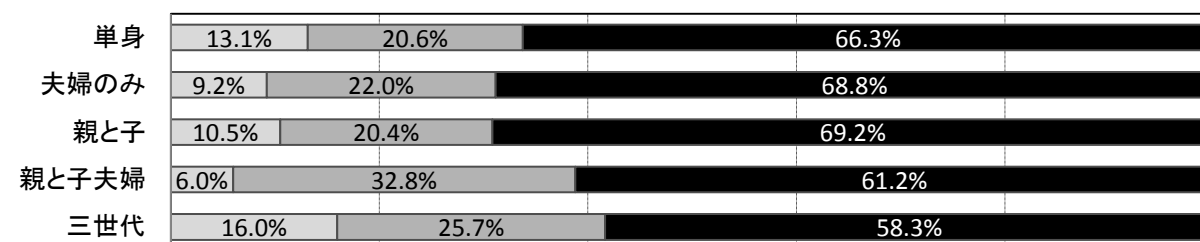
(年齢別) 0% 20% 40% 60% 80% 100%



(居住年数別)



(世帯構成別)

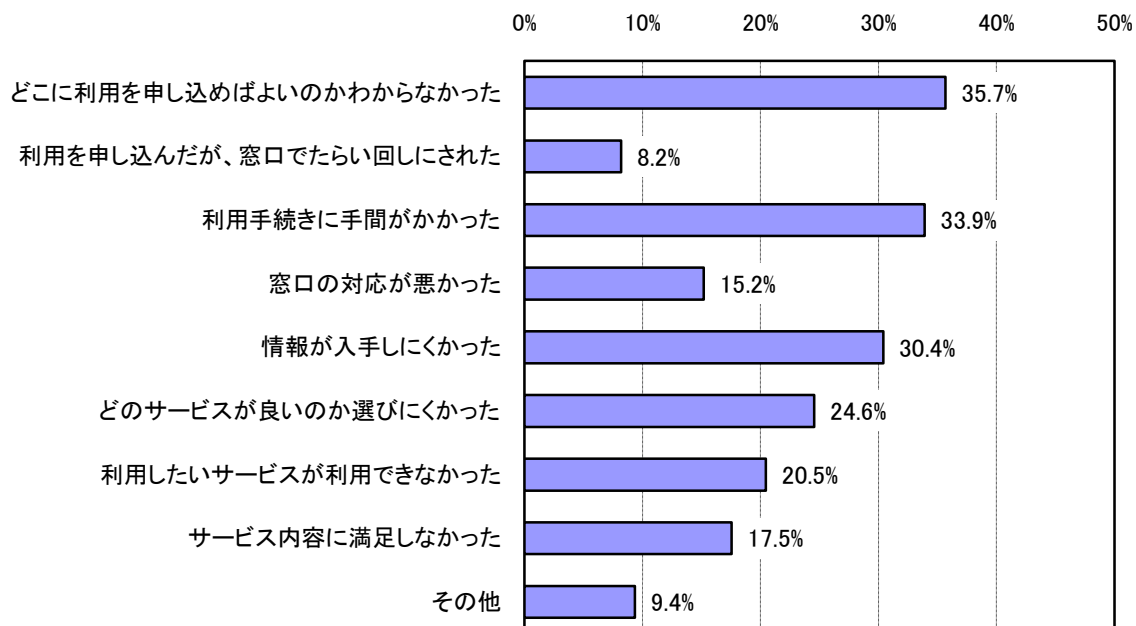


70代以下は「サービスを利用したことがない」が6割～7割。属性別で「不都合・不満を感じた」の割合が最も高いのは世帯構成別の「三世帯」で16.0%、最も低いのは同じく世帯構成別の「親と子夫婦」で6.0%となっている。

(問29で「1 不都合や不満を感じたことがある」を選択した方への設問)

(福祉サービスに) 不都合や不満を感じた理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

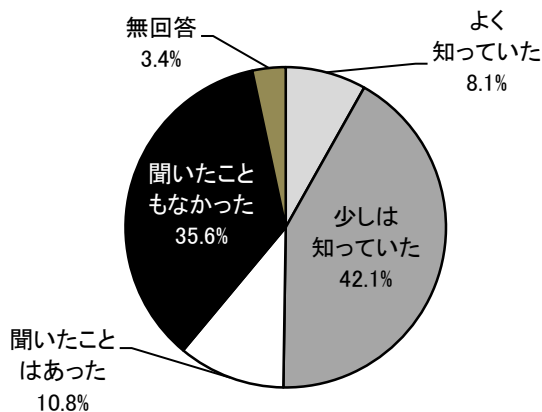


上位2項目は申し込みの場所や手間など、手続きに関する理由となった。選択するサービスの情報や内容がわかりにくいという理由が続いた。

5. 佐世保市における地域福祉の推進について

(問30) あなたは、「地域福祉」という言葉を知っていましたか。

(いずれか1つに○)



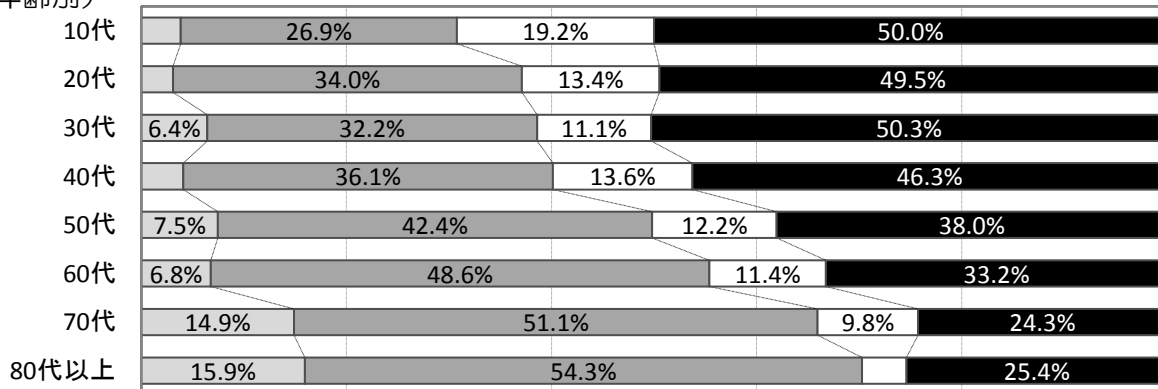
「よく知っていた」と「少しは知っていた」の割合を合わせると5割を超えている反面、「聞いたこともなかった」も35.6%と大きい。

■属性別の回答結果

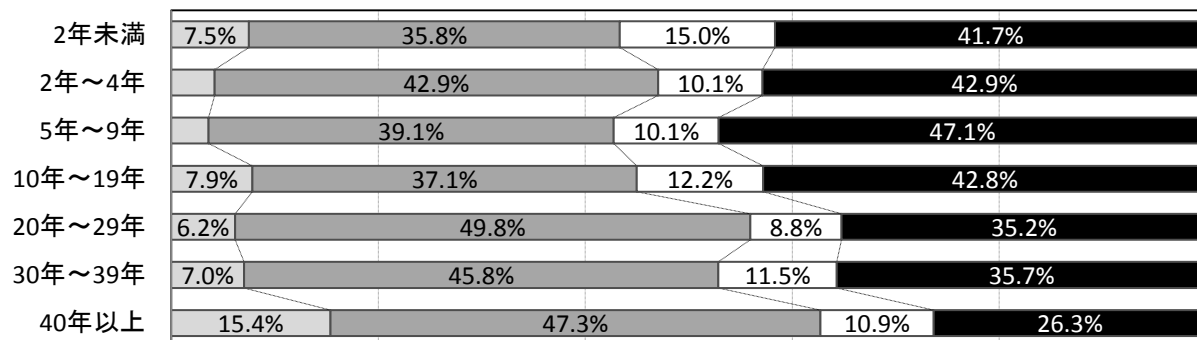
※無回答は除く

0% 20% 40% 60% 80% 100%

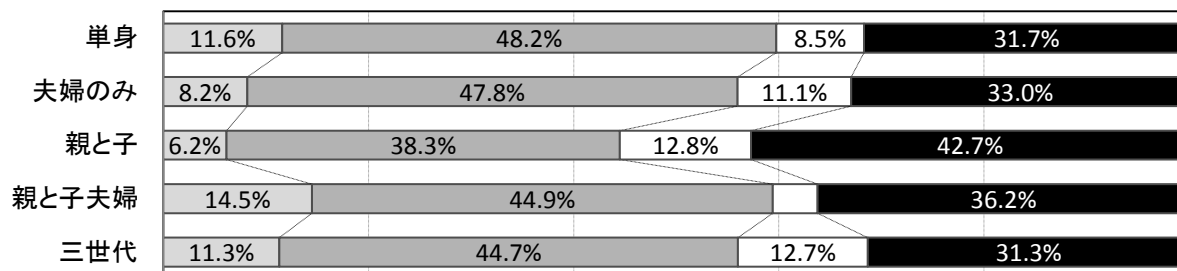
(年齢別)



(居住年数別)



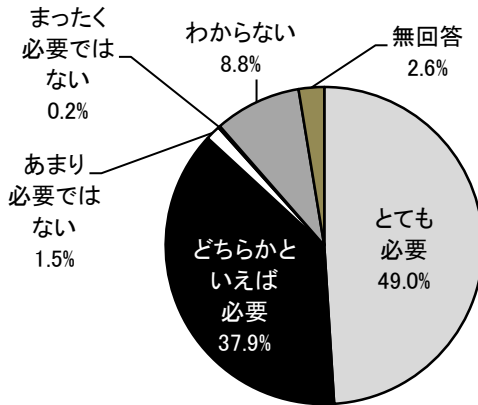
(世帯構成別)



概ね年代が高くなるごとに認知度が高くなっている。地域福祉という概念は比較的新しい考えであるためか、「聞いたこともなかった」という回答が、多い属性では5割程度見られた。

(問31) あなたは、「地域福祉」を進めることが必要だと思いますか。

(いずれか1つに○)



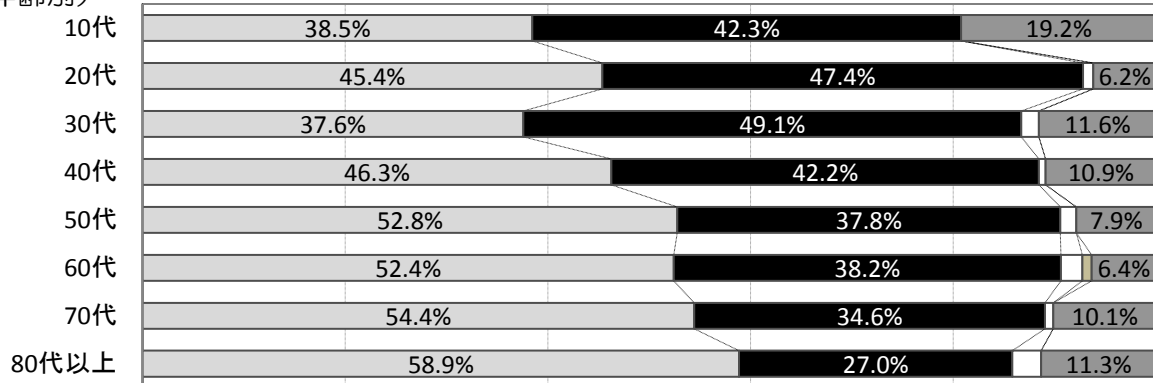
「とても必要」「どちらかといえば必要」で全体の約8割以上を占めた。

■属性別の回答結果

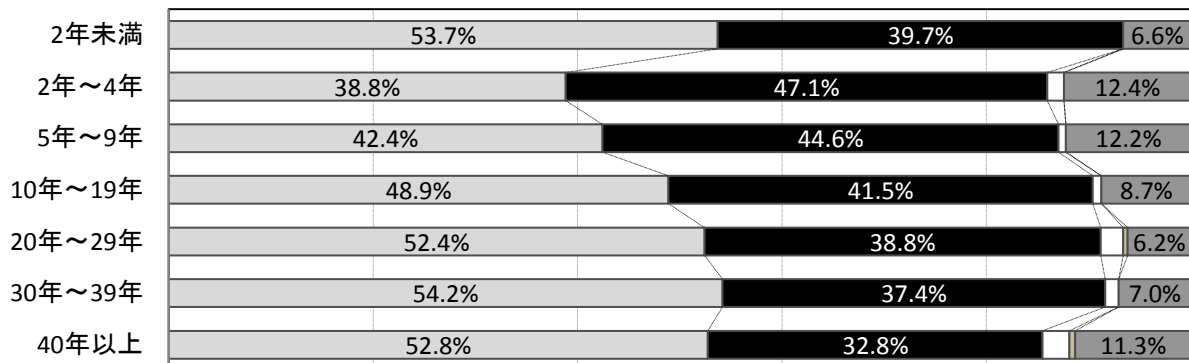
※無回答は除く

0% 20% 40% 60% 80% 100%

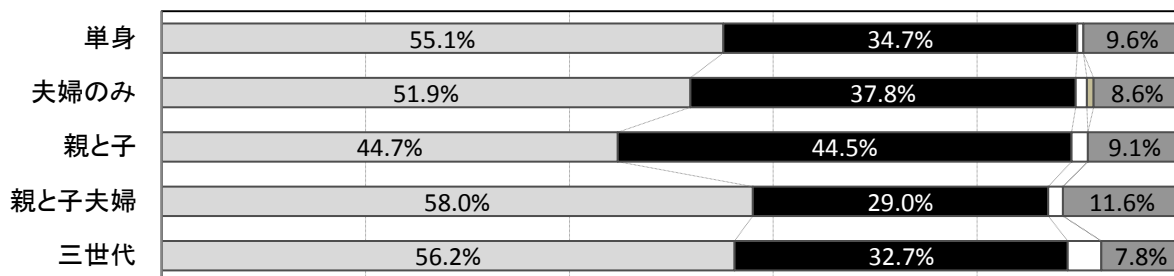
(年齢別)



(居住年数別)



(世帯構成別)

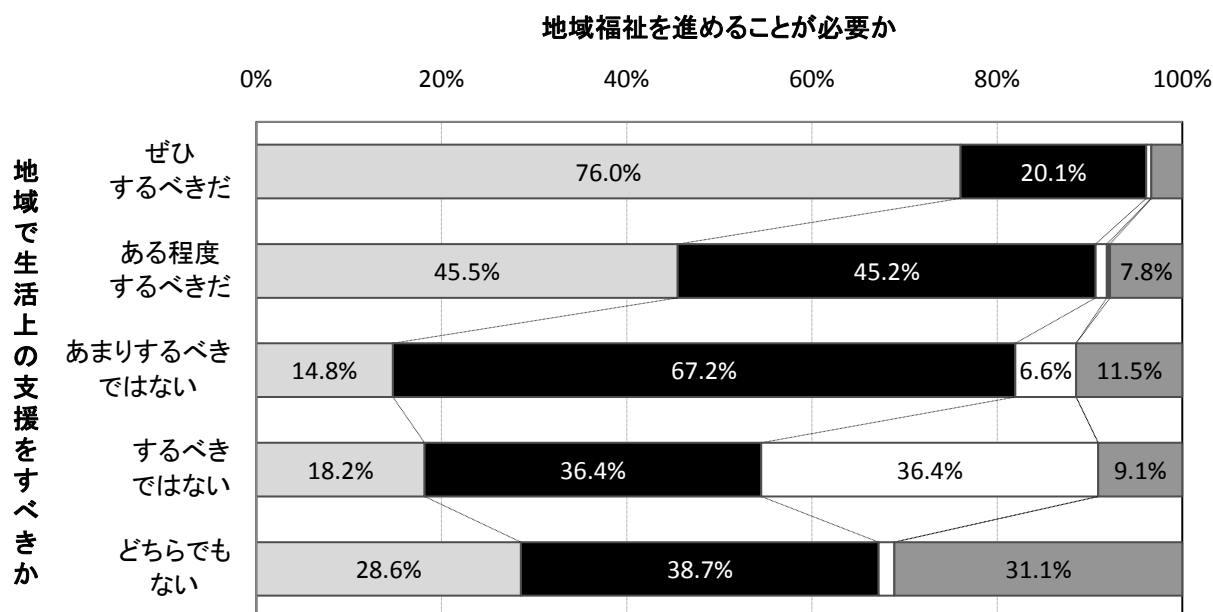


50代以上では50%以上が「とても必要だ」と回答している。「とても必要だ」・「どちらかといえば必要だ」を合わせると、どの属性別でも80%～90%となっており、必要性についての意識がうかがえる結果となっている。

■関連する設問との分析 ※無回答は除く

《地域で生活上の支援をし合うべきかの意識（問16の結果）との関係》

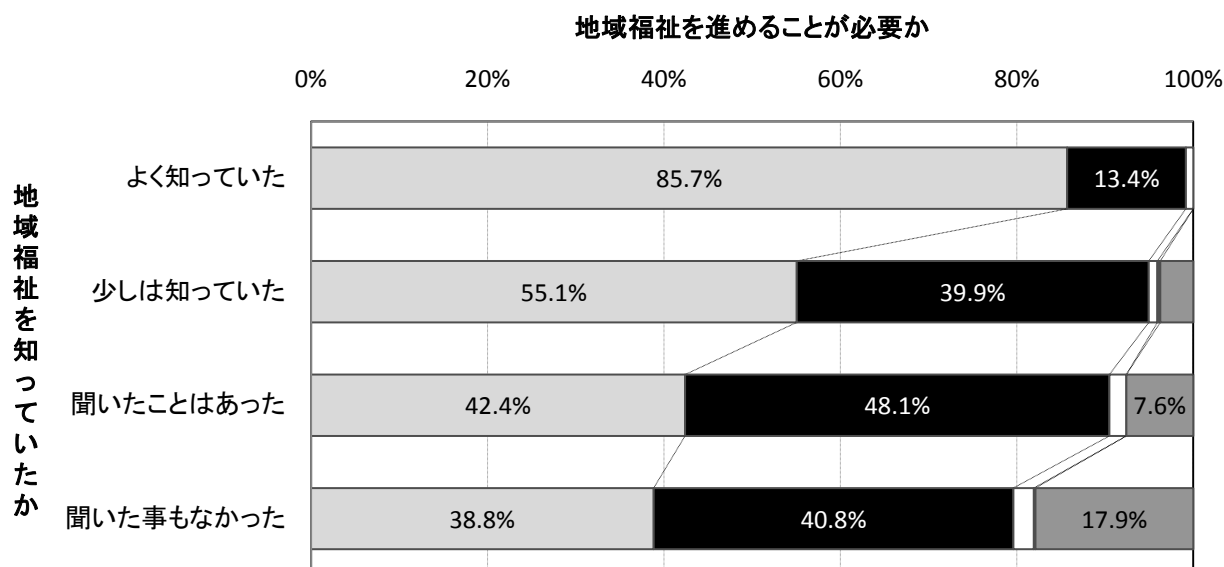
□とても必要だ ■どちらかといえば必要だ □あまり必要ではない ■まったく必要ではない ■わからない



問16で「ぜひするべきだ」と回答した人の76%は地域福祉が「とても必要だ」と回答している。問16では「あまりするべきではない」・「するべきではない」と回答した人の中にも、地域福祉は必要という回答の割合は大きい。

《地域福祉についての認知度（問30の結果）との関係》

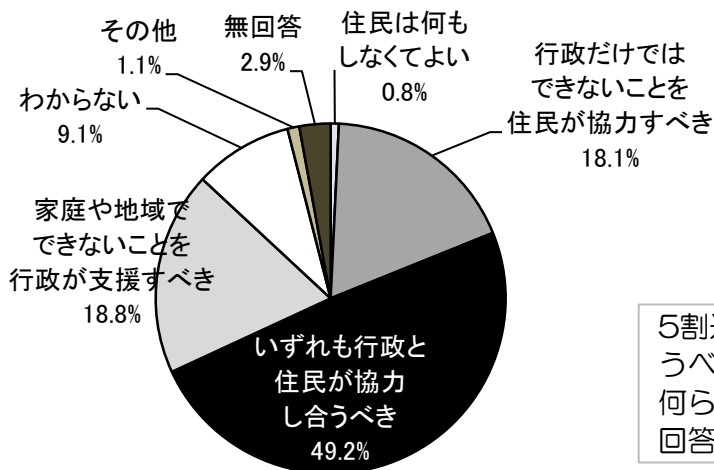
□とても必要だ ■どちらかといえば必要だ □あまり必要ではない ■まったく必要ではない ■わからない



全体的に必要なことについての意識は高く、元々の認知度が高いほど必要性についての意識も高い。「聞いたこともなかった」の中でも「あまり必要ではない」「必要ではない」という回答の割合はごくわずか。

(問32) 「地域福祉」を進めるために、行政と住民はどのような関係にあるべきだと思いますか。

(いずれか1つに○)



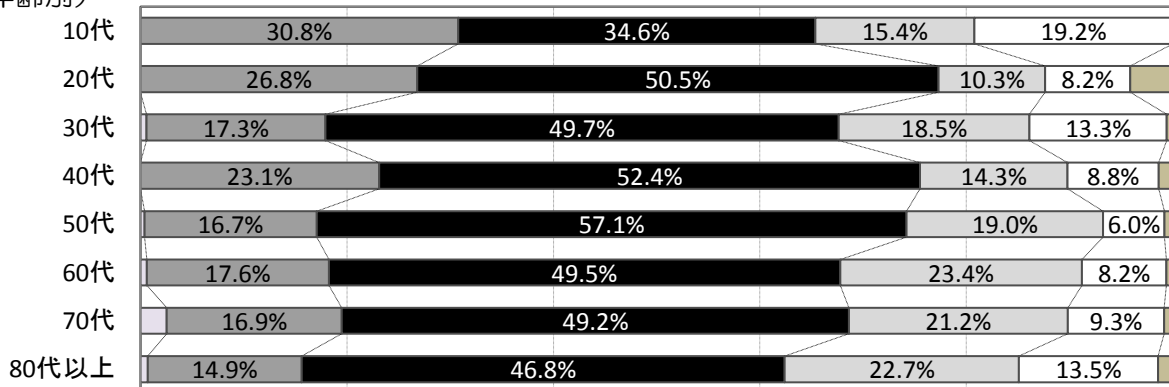
5割近くは「いずれの場合も協力し合うべき」という回答であったほか、何らかの形で協力し合うべきという回答で全体の85%を占めた。

■属性別の回答結果

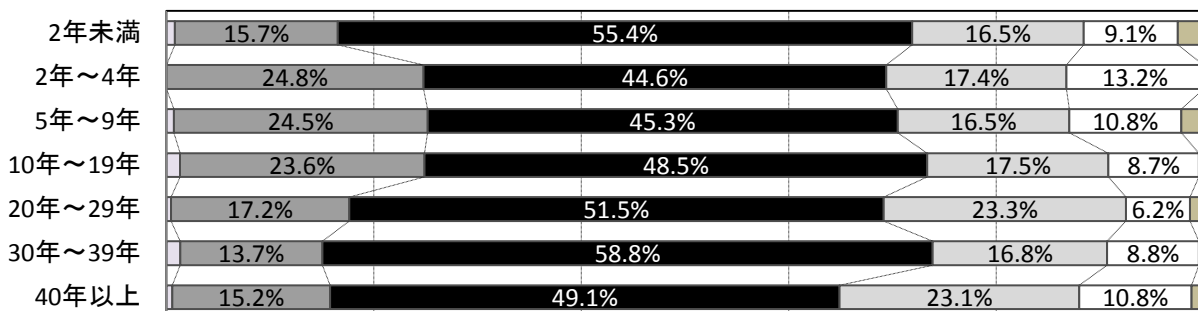
※無回答は除く

0% 20% 40% 60% 80% 100%

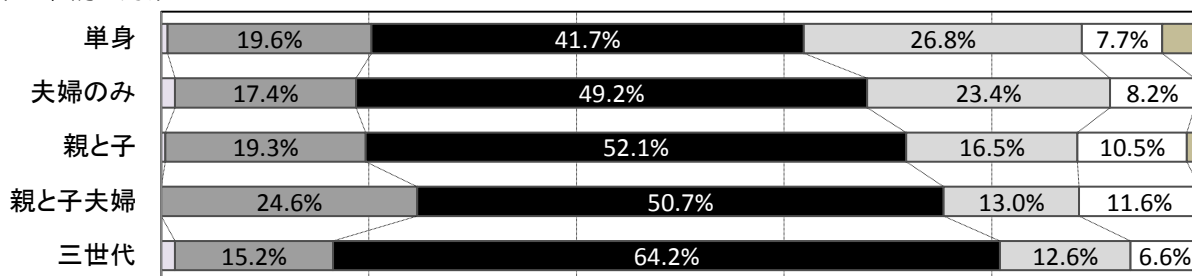
(年齢別)



(居住年数別)

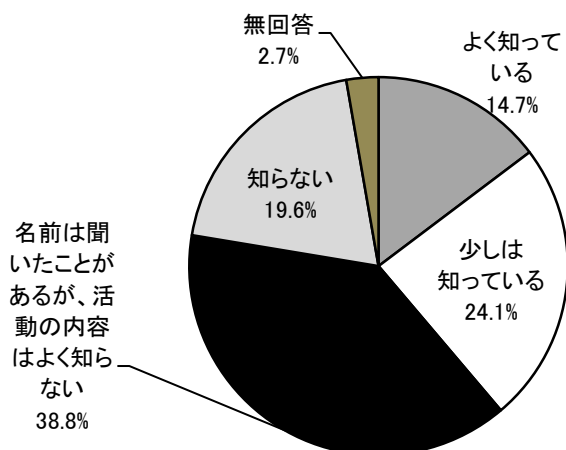


(世帯構成別)



属性別で「いずれの場合も行政と住民が協力し合うべき」という回答が最も少ないのは10代で34.6%、最も多いのは三世帯同居世帯の64.2%。どの属性別に見ても「住民は何もしなくてよい」という回答はごくわずかになっている。

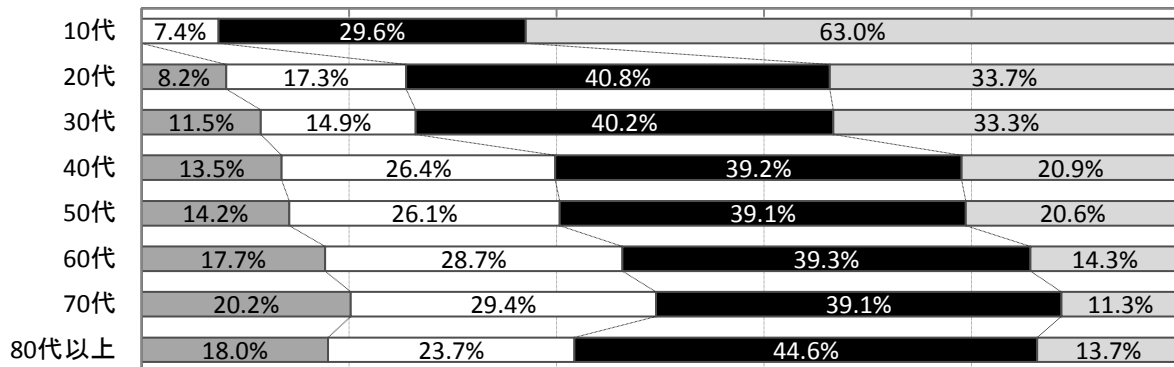
(問33) あなたは、「地域福祉」を推進するためにさまざまな活動を行っている団体「佐世保市社会福祉協議会」を知っていますか。
(いずれか1つに○)



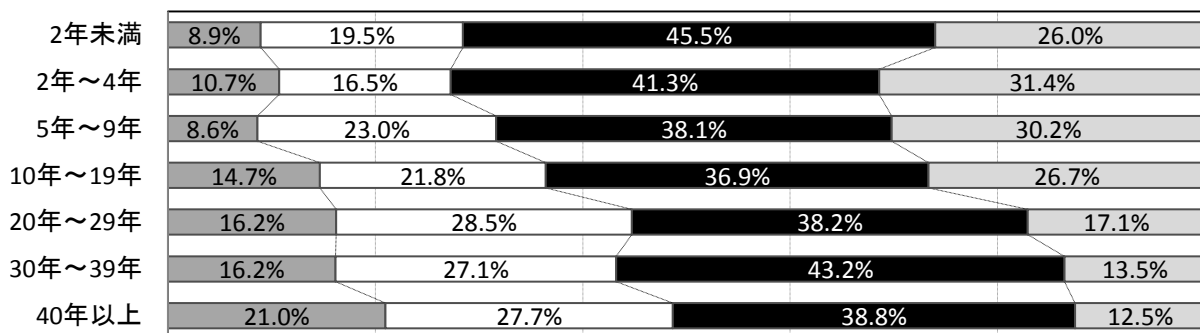
「よく知っている」「少しは知っている」を合わせても4割に満たないという結果になった。

■属性別の回答結果 ※無回答は除く

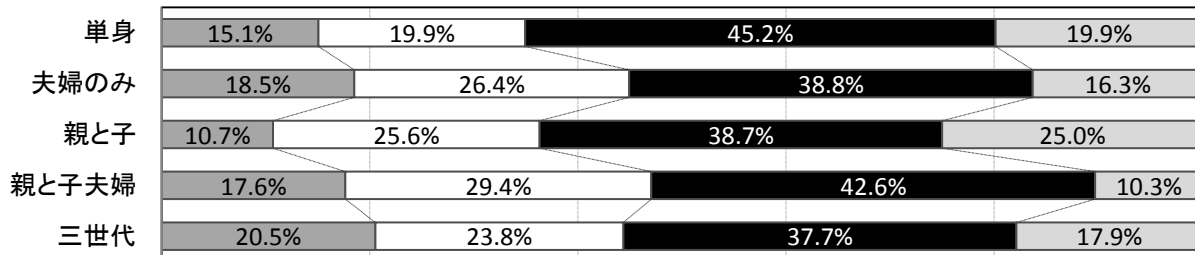
(年齢別) 0% 20% 40% 60% 80% 100%



(居住年数別)

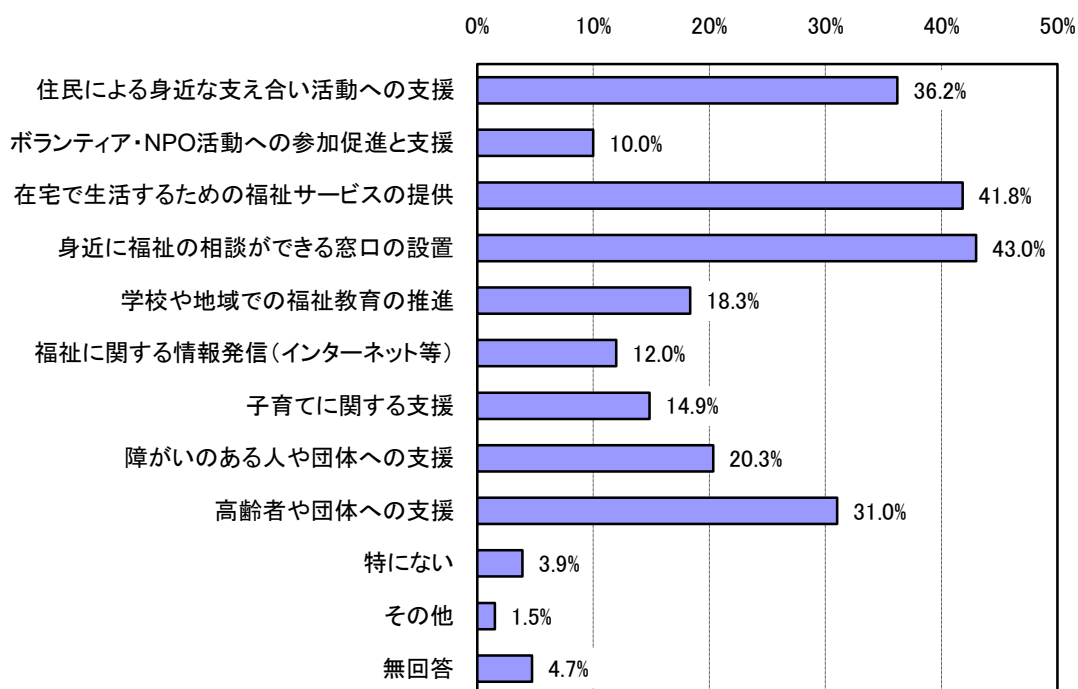


(世帯構成別)



10代から30代までの認知度は極端に少ない。10代では「知らない」も63%と多い。各属性の多くは「名前も聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」で、多いものでは45%を超えている。

(問34) あなたは、今後の「地域福祉」の推進のために、「佐世保市社会福祉協議会」が行う活動・支援として充実すべきことはどのようなことだと思いますか。
(3つまで○)



「身近に福祉の相談ができる窓口の設置」が43.0%で最も多く、次いで「在宅で生活するための福祉サービスの提供」が41.8%など、身近な生活の支援を望む声が多い。「その他」は「いずれも外せない」などの回答。

■属性別の回答結果（上位ベスト3のみ）

（年齢別）

	1位	2位	3位
10代	高齢者への支援 (37.0%)	障がい者への支援 (29.6%)	身近な支え合いへの支援 (25.9%)
20代	在宅生活のサービス提供 (34.7%)	身近な支え合いへの支援 (33.7%)	身近な相談窓口の設置 (29.6%)
30代	子育て支援 (38.9%)	身近な相談窓口の設置 (37.1%)	在宅生活のサービス提供 (29.7%)
40代	身近な相談窓口の設置 (46.3%)	在宅生活のサービス提供 (36.2%)	高齢者への支援 (29.5%)
50代	在宅生活のサービス提供 (49.8%)	身近な相談窓口の設置 (47.5%)	身近な支え合いへの支援 (37.5%)
60代	在宅生活のサービス提供 (48.5%)	身近な相談窓口の設置 (48.2%)	身近な支え合いへの支援 (42.6%)
70代	身近な相談窓口の設置 (45.4%)	在宅生活のサービス提供 (44.2%)	身近な支え合いへの支援 (40.6%)
80代～	高齢者への支援 (46.6%)	在宅生活のサービス提供 (37.8%)	身近な相談窓口の設置 (36.5%)

（居住年数別）

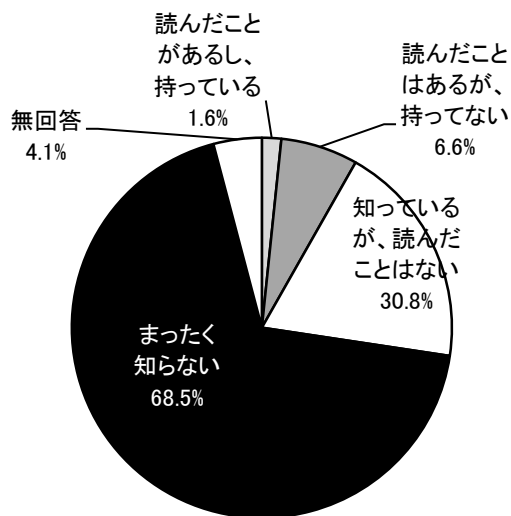
	1位	2位	3位
2年未満	在宅生活のサービス提供 (35.2%)	身近な相談窓口の設置 (34.4%)	身近な支え合いへの支援 (32.0%)
～4年	在宅生活のサービス提供 (36.1%)	身近な相談窓口の設置 (36.1%)	子育て支援 (32.8%)
～9年	身近な相談窓口の設置 (51.1%)	在宅生活のサービス提供 (39.0%)	身近な支え合いへの支援 (29.1%)
～19年	身近な相談窓口の設置 (40.4%)	在宅生活のサービス提供 (38.7%)	身近な支え合いへの支援 (34.3%)
～29年	身近な相談窓口の設置 (48.5%)	在宅生活のサービス提供 (45.1%)	身近な支え合いへの支援 (35.2%)
～39年	身近な相談窓口の設置 (46.6%)	在宅生活のサービス提供 (44.0%)	身近な支え合いへの支援 (39.7%)
40年～	在宅生活のサービス提供 (46.1%)	身近な相談窓口の設置 (41.6%)	身近な支え合いへの支援 (41.6%)

（世帯構成別）

	1位	2位	3位
単身	身近な相談窓口の設置 (47.1%)	身近な支え合いへの支援 (37.6%)	高齢者への支援 (37.6%)
夫婦のみ	在宅生活のサービス提供 (51.2%)	身近な支え合いへの支援 (44.6%)	身近な支え合いへの支援 (40.1%)
親と子	身近な相談窓口の設置 (42.5%)	在宅生活のサービス提供 (40.4%)	身近な支え合いへの支援 (30.4%)
親と子夫婦	身近な相談窓口の設置 (45.8%)	身近な支え合いへの支援 (41.7%)	身近な支え合いへの支援 (34.7%)
三世帯	身近な支え合いへの支援 (42.3%)	身近な支え合いへの支援 (38.5%)	在宅生活のサービス提供 (32.7%)
その他	高齢者への支援 (36.5%)	身近な相談窓口の設置 (34.9%)	在宅生活のサービス提供 (31.7%)

(問35) あなたは、市内31地区ごとに作られた「地域福祉活動計画」を知っていますか。

(いずれか1つに○)



「読んだことがある」の割合は合わせて8.2%と低い。「まったく知らない」も68.5%という結果になった。

■属性別の回答結果 ※無回答は除く

(年代別)	読んだことがあるし 持っている	読んだことはあるが 持っていない	知っているが 読んだことはない	まったく知らない
10代	0.0%	0.0%	7.4%	92.6%
20代	1.0%	1.0%	13.3%	84.7%
30代	1.7%	0.6%	11.5%	86.2%
40代	0.7%	4.1%	18.4%	76.9%
50代	2.0%	8.7%	17.4%	71.9%
60代	2.2%	5.3%	19.3%	73.3%
70代	2.1%	13.3%	29.6%	54.9%
80代以上	1.5%	11.5%	30.5%	56.5%

(居住年数別)	読んだことがあるし 持っている	読んだことはあるが 持っていない	知っているが 読んだことはない	まったく知らない
2年未満	0.0%	4.1%	16.3%	79.7%
2年～4年	0.8%	4.2%	11.8%	83.2%
5年～9年	3.6%	2.9%	20.3%	73.2%
10年～19年	0.9%	6.7%	16.1%	76.3%
20年～29年	2.2%	9.3%	17.7%	70.8%
30年～39年	0.9%	4.4%	22.6%	72.1%
40年以上	2.7%	9.9%	26.8%	60.5%

(世帯構成別)	読んだことがあるし 持っている	読んだことはあるが 持っていない	知っているが 読んだことはない	まったく知らない
単身	1.9%	6.8%	24.7%	66.7%
夫婦のみ	2.5%	9.0%	20.6%	67.9%
親と子	1.4%	4.8%	15.9%	77.9%
親と子夫婦	1.5%	10.8%	26.2%	61.5%
三世帯	1.3%	6.0%	26.5%	66.2%

属性別で「読んだことがある」が10%を超えたのは、70代以上、40年以上の居住者、親と子夫婦の世帯のみであった。10代に至っては「まったく知らない」が92.6%と高い割合を占めている。

■関連する設問との分析 ※無回答は除く

《「地域福祉」についての認知度（問30の結果）との関係》

		「地域福祉活動計画」を知っているか			
「地域福祉」という言葉を		読んだことがあるし持っている	読んだことはあるが持っていない	知っているが読んだことはない	まったく知らない
	よく知っていた	15.9%	22.4%	35.5%	26.2%
	少し知っていた	0.8%	10.5%	31.1%	57.6%
	聞いたことはあった	0.0%	4.5%	21.8%	73.7%
	聞いたこともなかった	0.4%	0.2%	3.7%	95.7%

概ね「地域福祉」という言葉の認知度に比例して「地域福祉活動計画」の認知度も高い。しかしながら、言葉をよく知っていた人の中でも、読んだことがある人は40%に満たないという結果となった。

6. 自由意見

(問36) 市の保健福祉に関する取り組みについて、ご意見やご提案などがございましたらお書きください。

※抜粋して掲載

①地域での支え合いに関すること

- ・ これからは可能な限り家族で支え合い、安易にサービスを利用しないように個々の自覚が必要。
- ・ 高齢の家族がもし寝たきりになったらと思うと不安。
- ・ 以前は住宅が多く隣り近所との交流もあったが、年々高齢化などで空洞化してしまった。残った人もほとんど町内会に加入していない。急病、事故の時などを考えると非常に不安。
- ・ 社会全体でお年寄りを思いやる必要があると思う。
- ・ 地域、町、市が一体となり、高齢者も含む弱者に敬老の精神を持ったきめ細かな対応が必要。
- ・ 住民による助け合いはとても必要だと思う。一番大事なのはお隣同士、地域の中での助け合いだと思う。
- ・ 誰もが支え合う人間関係を構築する為には家族や地域、事業所単位での啓発推進が必要。
- ・ 行政に頼らず、地域で頑張らなければならないと思うが、隣り近所が皆高齢で、気力が足りないのが現状。
- ・ 押し付けや、おせっかいで支援するのではなく、自然体で助け合えたらいいのでは…。
- ・ もう一度「オアシス運動」について取り組みを行えば、何かが変わると思います。
- ・ 生活にゆとりがあれば協力することも考えられるが、まずは、自分の家族の生活を最優先になってしまう。
- ・ もっと周りの人に優しい目を向けられる豊かな人間が1人でも多くなる事を願う。
- ・ 福祉を身近な物として認識し、健康かどうかに関わらず人間として考え取り組んでいかなければならない。
- ・ 手助けする気持ちはあるが、受ける側の気持ちは分からないため、身内にそういう人がいる人の意見を聞いてからでないといけない。
- ・ 身近な人が困っていれば助けたいと思うが、情報も入って来ないというプライバシーの問題も有って関わりにくいのが現状。
- ・ 地域の方、特に隣り近所の方には支援は受けたくない。行政の方をお願いしたい。
- ・ まだまだ他人に迷惑をかけたくないという考えの人が多い。公的な活動から広がって支え合える地域になればと思う。
- ・ 住民ができることには限度がある。やはり介護員がしてやった方が金銭面などけじめがついて良い。
- ・ 過剰な福祉行政で自立の精神が失われており現在の日本は福祉亡国の道をだどっている様な気がする。「親子の愛」「近隣の愛」「自立心」を取り戻す施策も福祉行政の一端ではないか？
- ・ 何らかのネットワーク作りをしておかないと、本当に少子高齢化社会での福祉は手遅れになっていくのではないか？
- ・ 若者と高齢者、健常者と障がい者のふれあいが少ない。福祉の知識、認識の差を埋めるための取り組みをお願いしたい。
- ・ 子供・高齢者・障がい者の家族へもっと身近に手を差し伸べる、対象になる家族へアンケートなどで悩みの解決・コミュニケーションを図る等、それぞれのできる事を生かし、広げ、生きる知恵を活用する方法なども取り組まれては。
- ・ 健康保険料が市によって異なり、住民の負担も少しずつ高くなっている。高齢者や障がいのある方を助け合う事が大事だが、少ない収入の中でのやりくりはとても大変。行政が福祉活動をするに当たり、住民の負担がまた増えると一般の人まで生活苦になるのではないか？
- ・ 地域住民が助け合うために、まず環境をよくすることが必要。佐世保はゴミの不法投棄が目立ち、環境問題への意識の低さやゴミ袋が高いことも原因とも考えられる。ゴミ袋が安くなれば不法投棄も減り、周りの環境が良くなり、地域福祉への取り組みも良くなると思う。

②地域活動やボランティア活動に関すること

- ・ 行政、住民、ボランティアのどれが出過ぎてもうまくいらない。昔の「隣り組」まではなくても、隣近所のお付き合いは大事にすべき。
- ・ 保健福祉は市、地域、ボランティア、個人それぞれが必要。参加しやすい事から取りくんでいけたらと思う。
- ・ 市の職員が地域の活動に参加し、ふれあいの場を増やすことで結果的に助け合いの気持ちが出てくると思う。
- ・ 60代の元気な人たちにはもっとボランティアに参加するような情報をアピールしてほしい。
- ・ 現役を終えた若い中高年者がこれまでの経験を生かして、若いお父さん、お母さんの子育てを手助けする様な場があるといいと思います。
- ・ 失業者や元気な高齢者を福祉活動に活用する。学校教育において福祉に関わる実践活動を継続的に行う。
- ・ 地域で助け合ってお手伝い出来れば良いと思うが、高齢者ばかりで若い人が少ないのが現状。
- ・ 今のところ元気なので、できるうちに福祉に係る住民活動には参加しておこうと考えています。
- ・ 普段の生活で仕事が忙しく、情報があまりなく、地域の活動にも参加できていない。今後の生活は不安。
- ・ 現在は健康で会社勤めの為、地域での活動内容は無知。これを機会に親身になって考えたいです。
- ・ ボランティアに参加したいと思っていても、その情報を知り得ない。具体的にどのようなものがあるか、広報などで知らせてほしい。
- ・ 時間があれば手伝えると思うのですがどのように関わっていくべきかわからず、活動拠点も知りません。
- ・ 目立つような宣伝があれば、子ども連れて参加したい。イベントなどで知る機会が多いと大変助かる。
- ・ 地域で活動する若い人が少なくなって、地域の活性化がなかなか出来ないように感じる。やはり相談する人が身近にいて欲しい。
- ・ ボランティアセンターが遠くなって、利用する人にとっては不便ではないか。
- ・ 誰もが気軽に集まって世間話が出来場所が欲しい。

③福祉サービスに関すること

(高齢者に関すること)

- ・ 介護保険サービスにいずれは世話になるので、施設の事なども少しは知っておきたいと思う。
- ・ 介護保険のサービスについては、もっと詳しく広報して、本当に困っている方々にも内容を知らせてほしい。
- ・ 介護保険料の所得段階区分の不公平を是正してほしい。
- ・ サービスの利用料が高くて大変な思いをしている。もう少し金額を下げる事が出来ないのか？
- ・ 家族が遠方にいたり身寄りが無い独居老人の在宅での介護に、より多くの福祉サービスの提供を希望する。
- ・ これから増える高齢者に対して、もっと多くの福祉施設をつくってほしい。
- ・ 施設の職員が高齢者を思いやって接するように、行政からも教育や指導をすべき。
- ・ 重症者お断りの施設など必要ない。入所を断られた父は病院で亡くなり、家族として充分にしてやれなかった事をずっと後悔している。
- ・ 高齢者については、医療費の負担が増えないようにしたり、すぐに病院に診てもらえるようにお願いしたい。
- ・ 離島に訪問介護員が少ない。デイサービスは行こうとする人ばかりではない。
- ・ 介護保険を申請してから、認定するまでの時間が長い。施設入所の相談も家族が動かなければ、入所先も見つけられず大変だった。
- ・ 家族が要支援認定を受け、身近に福祉の事を考える事になった。市の対応は関係者の方も早くて親切。
- ・ 高齢者のためにもっと積極的に行政が対応すべき。行政から身内へ提案をしたり近所の人へ様子を聞いたりすることも必要。
- ・ 今後は介護保険等福祉事業の費用が益々増えると思われるので、今後とも税金を有効に使ってもらいたい。
- ・ 高齢者で健康な人を表彰する、もしくは、年金を増やして健康な老人を推奨すべき。
- ・ 高齢者バス券を有難く使用させてもらっています。

(障がい者に関すること)	
・	障がいを持つ子どもがいつでも気軽に利用できるような施設が増えるといいのではないか。総合病院などと隣接して出来れば安心。
・	障がいの等級の決め方が少々納得できない。等級変更の相談にも全く乗っていただけず、残念だった。
・	障がい者手帳をもっている人が利用できるサービスなど色々な情報を知る機会を作ってほしい。
・	精神障がい者やアスペルガー症候群などの方々への支援や相談窓口をもっと増やした方がいい。学校や職場に対する教育などもとても大事。
・	障がいを持った方、身体だけでなく精神も含めて社会参加、社会復帰への足がかりになる場所やプログラムを充実して貰いたい。
・	障がい児への福祉が全く充実していない。十分に訓練を受けられない人達が沢山いる。
・	昔に比べて障がい者への見方が変わった。今後も障がい者支援に積極的に取り組んでいただき、佐世保は住みやすい所と思ってもらえる所にしてほしい。
(子どもに関すること)	
・	2人目の子どもを産んでも、産後2ヶ月までしか上の子を保育園に預けられないのは辛い。もっと産む女性の事を考えるべき。
・	幼稚園の比受けられたサービス（OTなど）が小学校から受けられなくなり、子どもの成長に影響している。
・	親が安心して子どもたちを外に出せて、子どもたちも安心して遊べる公園や施設、場所を作ってほしい。
・	子ども手当は必要ないと思う。例えば施設を充実したり、教材の費用などを無料化にすることなどが必要。
・	誰でも老いたら子の世話になる。家族のあり方についての子どもの教育に行政施策として取り組んで欲しい。

④地域福祉に関すること	
・	地域福祉に対する意識が薄く、反省させられた。もう少し若い世代の人へのアピールの方法がないものか。
・	地域福祉について全く知りませんでした。一人暮らしで不安な時もあります。安心して暮らせる様に少し勉強しなければと思いました。
・	地域福祉についてはもっと分りやすく皆に知らせて欲しい。職場などにも宣伝して欲しい。
・	地域福祉の情報をもっとPRすべき。町内の会合等で広めてほしい。そのことによって支援したい人々や関わる方も気楽に感じるのでは。
・	地域福祉計画は何かまったく知らないで、どんな計画か知らせてほしい。
・	このアンケートで色んな取り組みを知ったが、現状は私も含め一人一人の意識改革なくしては無理のようだ。
・	地域福祉について今まで関心もなくよく知らなかったが、今後高齢化が進むと現実の問題になると思う。
・	地域福祉という考えは大切だと感じたが、最近は近所付き合いも少なく、地域の高齢化が進み、活動も大変。
・	もっと大勢の人が地域福祉の内容を理解し、協力し合えるための資料の提供をお願いします。
・	あまりにも知識がないため、これから少しでも関心を寄せたい。このような活動は一朝一夕で出来るものではなく、気の長い活動が必要。
・	地域福祉というのが具体的に何を指すのかよくわからない。
・	このアンケートをもらって初めて市の地域福祉活動計画をインターネットで見た。計画期間は5年間だが、福祉活動はずっと続くものなので、みんなが主役の共生できる”まち”づくりが出来ていけばと思う。
・	家庭、地域、事業所での繋がりが希薄になっている状況の中で「地域福祉」は成り立たない状況ではないか。
・	市が地域福祉について何か始めようとしていることは理解できたが、方針のようなものは何かで明示しているのか？見た記憶がない。
・	これからどのような活動をされるのか身近な所で聞きたい。私たちに出来る事はどんな事か？関心のある方もたくさんおられると思う。
・	地域で話をするのではなく、町内単位でも聞いてほしい。計画倒れにならないように。
・	組織や計画づくりに時間がかかって活動に入っていけないのではないか。相談機関や計画ができて人の心が動いていない。

⑤その他

（このアンケートについて）

- ・ このアンケートでどう変わるか期待しています。
- ・ アンケートの結果は、広報させば等で公表してほしい。
- ・ わかりづらい設問もあった。もう少しわかりやすく簡単にまとめて質問した方がいい。
- ・ もう少し地域の有力者に配布した方がいいのではないのでしょうか。
- ・ 何のためにしているのか意味がわからない。このアンケートの前にすることはないのか。もっと足を使って動いた方がいい。
- ・ このような書面を発送されたら保健福祉に関心が深まるのではないかと？
- ・ 今は、健康で過ごしていますので、このアンケートに答えることで意識的に情報など目にとまることになりそうであった。
- ・ 自身の無知に恥ずかしく思いました。今後は福祉にも関心を持ち生きたい。
- ・ 知らなかった事が沢山あり、自分の知らないところで頑張っている人がいるのだと思い感心しました。

（行政の取り組み全般について）

- ・ これからもっと高齢化が進む。高齢者が安心して暮らせる社会のためにより一層の福祉を充実してほしい。
- ・ それぞれの家庭での自己責任では支えきれないところを地域や行政で早めに解決できるよう、行き届いた保健福祉を望む。
- ・ 高齢化社会で自治体も大変かと思いますが住民と協力しながら良い環境を作れるよう指導して頂きたい。
- ・ 出来るだけ在宅で生活できるように、社会福祉協議会の支援などを充実させるべき。
- ・ 市民参加による事業仕分けを実施して、浮いた金額を福祉の費用に回してもらいたい。
- ・ 市の職員にもっとボランティア精神で頑張ってもらいたい。
- ・ 市の職員は真心をもって対応してほしい。おごりを正さないと保健福祉とは言えない。
- ・ 市民への意識向上の為に、まず保健福祉に関わる職員の知識レベルの向上（心のバリアフリー）を願いたい。
- ・ 行政の対応が悪い（電話対応や相談のたらい回し、認定調査など）
- ・ 本当に必要としている人が福祉、保護を受けられず、遊んでいる人が保護されている感じがする。もっと公平に審査していただきたい。
- ・ ボランティア・NPOの活動なども利用して、より良い福祉の充実を図るべき。
- ・ 市役所等、時間が決められた所での手続きはとても不便。
- ・ 市の保健福祉に関する情報を発信する広報活動をもっと充実してもらいたい。協力したいと思っている人は多いと思う。
- ・ 市域が広がり、住民も行政も時間的なロスも含め大変である。
- ・ 通院等による格差等の是正がなければ離島の福祉行政は後退してしまふ。すべてにおいて本土と同じような行政サービスをお願いしたい。
- ・ 行政の手続きがもっと簡単になればと思う。書類などの記入もわかりにくい。難しい言葉が多く広報も読みにくい。もっと工夫してほしい。
- ・ 市の予算や職員の取り組みをよりわかりやすく広報し、人が集まる場所で講習会等の工夫があると良い。
- ・ 色々な福祉サービスの利用の仕方が分からず、どうすれば良いのかと迷っている方が多々おられる。もっと気楽に相談出来る窓口があれば。